

⑥居所

行方不明時の居所は、「自宅 同居者あり」が9割以上を占めていた。施設・病院は6名だけだった。なお、男女による差もほとんどなかった。

表 15 居所と性別

	男性		女性		合計	
	度数	列の N %	度数	列の N %	度数	列の N %
自宅 一人暮らし	4	3.8%	6	6.1%	10	4.9%
自宅 同居者あり	97	91.5%	91	92.9%	188	92.2%
施設 認知症対応型グループホーム	0	0.0%	1	1.0%	1	.5%
施設 特別養護老人ホーム	1	.9%	0	0.0%	1	.5%
施設 介護老人保健施設	1	.9%	0	0.0%	1	.5%
施設 その他施設	1	.9%	0	0.0%	1	.5%
病院 一般病床	2	1.9%	0	0.0%	2	1.0%
合計	106	100.0%	98	100.0%	204	100.0%

行方不明時の居所を年齢別にみると、年齢による違いはほとんどなかった。

表 16 居所と年齢

	前期高齢者 (74歳未満)		後期高齢者 (75~84歳)		超高齢者 (85歳以上)		合計	
	度数	列の N %	度数	列の N %	度数	列の N %	度数	列の N %
自宅 一人暮らし	2	4.3%	5	4.6%	3	6.3%	10	4.9%
自宅 同居者あり	43	91.5%	101	92.7%	44	91.7%	188	92.2%
施設 認知症対応型グループホーム	0	0.0%	1	.9%	0	0.0%	1	.5%
施設 特別養護老人ホーム	0	0.0%	0	0.0%	1	2.1%	1	.5%
施設 介護老人保健施設	1	2.1%	0	0.0%	0	0.0%	1	.5%
施設 その他施設	0	0.0%	1	.9%	0	0.0%	1	.5%
病院 一般病床	1	2.1%	1	.9%	0	0.0%	2	1.0%
合計	47	100.0%	109	100.0%	48	100.0%	204	100.0%

居所が自宅の者の居住期間であるが、「認知症（疑いを含む）になる前から住んでいて、改築もしていない」が145名（73.2%）と7割を超えていた。

男女別にみると、「認知症（疑いを含む）になる前から住んでいて、改築もしていない」は男性が76名（75.2%）、女性は69名（71.1%）であった。

表 17 自宅居住期間と性別

	男性		女性		合計	
	度数	列の N %	度数	列の N %	度数	列の N %
認知症（疑いを含む）になる前から住んでいて、改築もしていない	76	75.2%	69	71.1%	145	73.2%
認知症（疑いを含む）になる前から住んでいたが、改築した	13	12.9%	18	18.6%	31	15.7%
行方不明になる前に転居してきた	9	8.9%	9	9.3%	18	9.1%
その他	2	2.0%	0	0.0%	2	1.0%
わからない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	1	1.0%	1	1.0%	2	1.0%
合計	101	100.0%	97	100.0%	198	100.0%

※居所が施設・病院の者を除く

居所が自宅の者の居住期間と年齢をみると、「認知症（疑いを含む）になる前から住んでいて、改築もしていない」は、前期高齢者は36名（80.0%）、後期高齢者は78名（73.6%）、超高齢者は31名（66.0%）となっていた。

表 18 自宅居住期間と年齢

	前期高齢者 (74歳未満)		後期高齢者 (75~84歳)		超高齢者 (85歳以上)		合計	
	度数	列の N %	度数	列の N %	度数	列の N %	度数	列の N %
認知症（疑いを含む）になる前から住んでいて、改築もしていない	36	80.0%	78	73.6%	31	66.0%	145	73.2%
認知症（疑いを含む）になる前から住んでいたが、改築した	6	13.3%	15	14.2%	10	21.3%	31	15.7%
行方不明になる前に転居してきた	3	6.7%	10	9.4%	5	10.6%	18	9.1%
その他	0	0.0%	2	1.9%	0	0.0%	2	1.0%
わからない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	0	0.0%	1	.9%	1	2.1%	2	1.0%
合計	45	100.0%	106	100.0%	47	100.0%	198	100.0%

※居所が施設・病院の者を除く

⑦世帯状況

行方不明時の世帯状況であるが、「三世帯世帯」が52名（26.3%）と最も多かったが、「夫婦のみの世帯」と「その他の世帯」も50名（25.3%）と僅差で続いており、この3つが多くなっていた。

なお、性別による違いをみると、男性は「夫婦のみの世帯」が28名（27.7%）と最も多かったが、女性では「三世帯世帯」が28名（28.9%）と最も多かった。

表 19 世帯状況と性別

	男性		女性		合計	
	度数	列の N %	度数	列の N %	度数	列の N %
夫婦のみの世帯	28	27.7%	22	22.7%	50	25.3%
夫婦と未婚の子のみの世帯	21	20.8%	11	11.3%	32	16.2%
ひとり親と未婚の子のみの世帯	3	3.0%	8	8.2%	11	5.6%
三世帯世帯	24	23.8%	28	28.9%	52	26.3%
その他の世帯	23	22.8%	27	27.8%	50	25.3%
わからない	1	1.0%	0	0.0%	1	.5%
無回答	1	1.0%	1	1.0%	2	1.0%
合計	101	100.0%	97	100.0%	198	100.0%

※居所が施設・病院の者を除く

世帯状況と年齢をみると、前期高齢者では「夫婦のみの世帯」と「その他の世帯」が14名（31.1%）と最も多くなっているが、後期高齢者では「三世帯世帯」が35名（33.0%）、超高齢者では「その他の世帯」の19名（40.4%）が最も多くなっていた。

表 20 世帯状況と年齢

	前期高齢者 (74歳未満)		後期高齢者 (75～84歳)		超高齢者(85 歳以上)		合計	
	度数	列のN%	度数	列のN%	度数	列のN%	度数	列のN%
夫婦のみの世帯	14	31.1%	30	28.3%	6	12.8%	50	25.3%
夫婦と未婚の子のみの世帯	8	17.8%	17	16.0%	7	14.9%	32	16.2%
ひとり親と未婚の子のみの世帯	4	8.9%	4	3.8%	3	6.4%	11	5.6%
三世帯世帯	5	11.1%	35	33.0%	12	25.5%	52	26.3%
その他の世帯	14	31.1%	17	16.0%	19	40.4%	50	25.3%
わからない	0	0.0%	1	.9%	0	0.0%	1	.5%
無回答	0	0.0%	2	1.9%	0	0.0%	2	1.0%
合計	45	100.0%	106	100.0%	47	100.0%	198	100.0%

※居所が施設・病院の者を除く

⑧介護状況

介護状況を見ると、いわゆる老老介護であるのは83名(41.9%)と約4割であった。しかし、男女別にみると、男性は55名(54.5%)と過半数であるのに対して、女性では28名(28.9%)と3割を切っていた。

表 21 介護状況(老老介護)と性別

	男性		女性		合計	
	度数	列のN%	度数	列のN%	度数	列のN%
そうである	55	54.5%	28	28.9%	83	41.9%
そうではない	41	40.6%	63	64.9%	104	52.5%
わからない	2	2.0%	0	0.0%	2	1.0%
無回答	3	3.0%	6	6.2%	9	4.5%
合計	101	100.0%	97	100.0%	198	100.0%

※居所が施設・病院の者を除く

また、老老介護と年齢をみると、「そうではない」という回答が前期高齢者では25名(55.6%)、後期高齢者では52名(49.1%)、超高齢者では27名(57.4%)が最も多くなっていた。しかし、後期高齢者では「そうである」という回答が50名(47.2%)あり、「そうではない」という回答とほぼ同じであった。

表 22 介護状況(老老介護)と年齢

	前期高齢者 (74歳未満)		後期高齢者 (75～84歳)		超高齢者(85 歳以上)		合計	
	度数	列のN%	度数	列のN%	度数	列のN%	度数	列のN%
そうである	18	40.0%	50	47.2%	15	31.9%	83	41.9%
そうではない	25	55.6%	52	49.1%	27	57.4%	104	52.5%
わからない	1	2.2%	1	.9%	0	0.0%	2	1.0%
無回答	1	2.2%	3	2.8%	5	10.6%	9	4.5%
合計	45	100.0%	106	100.0%	47	100.0%	198	100.0%

※居所が施設・病院の者を除く

介護状況で、いわゆる認認介護であるが、「そうではない」が176名(88.9%)と約9割を占めていた。男女の違いもほとんどなかった。

表 23 介護状況(認認介護)と性別

	男性		女性		合計	
	度数	列のN%	度数	列のN%	度数	列のN%
そうである	6	5.9%	3	3.1%	9	4.5%
そうではない	88	87.1%	88	90.7%	176	88.9%
わからない	3	3.0%	0	0.0%	3	1.5%
無回答	4	4.0%	6	6.2%	10	5.1%
合計	101	100.0%	97	100.0%	198	100.0%

※居所が施設・病院の者を除く

認認介護と年齢をみると、前期高齢者、後期高齢者、超高齢者のいずれも、「そうではない」がほとんどを占め、年齢による違いあまりなかった。

表 24 介護状況(認認介護)と年齢

	前期高齢者 (74歳未満)		後期高齢者 (75～84歳)		超高齢者(85 歳以上)		合計	
	度数	列のN%	度数	列のN%	度数	列のN%	度数	列のN%
そうである	1	2.2%	4	3.8%	4	8.5%	9	4.5%
そうではない	41	91.1%	95	89.6%	40	85.1%	176	88.9%
わからない	1	2.2%	1	.9%	1	2.1%	3	1.5%
無回答	2	4.4%	6	5.7%	2	4.3%	10	5.1%
合計	45	100.0%	106	100.0%	47	100.0%	198	100.0%

※居所が施設・病院の者を除く

介護状況で行方不明者以外の認知症者の有無であるが、167名(84.3%)が「そうではない」と回答した。

男女差をみると「そうではない」は、男性が81名(80.2%)、女性が86名(88.7%)であった。

表 25 介護状況(他の認知症者)と性別

	男性		女性		合計	
	度数	列のN%	度数	列のN%	度数	列のN%
そうである	14	13.9%	8	8.2%	22	11.1%
そうではない	81	80.2%	86	88.7%	167	84.3%
わからない	3	3.0%	0	0.0%	3	1.5%
無回答	3	3.0%	3	3.1%	6	3.0%
合計	101	100.0%	97	100.0%	198	100.0%

※居所が施設・病院の者を除く

行方不明者以外の認知症者の有無と年齢をみると、「そうではない」が前期高齢者で 39 名 (86.7%)、後期高齢者で 90 名 (84.9%)、超高齢者で 38 名 (80.9%) を占め、いずれにおいても「そうではない」が 8 割以上を占め、年齢による違いはあまりみられなかった。

表 26 介護状況 (他の認知症者) と年齢

	前期高齢者 (74歳未満)		後期高齢者 (75～84歳)		超高齢者 (85 歳以上)		合計	
	度数	列の N %	度数	列の N %	度数	列の N %	度数	列の N %
そうである	3	6.7%	11	10.4%	8	17.0%	22	11.1%
そうではない	39	86.7%	90	84.9%	38	80.9%	167	84.3%
わからない	1	2.2%	1	.9%	1	2.1%	3	1.5%
無回答	2	4.4%	4	3.8%	0	0.0%	6	3.0%
合計	45	100.0%	106	100.0%	47	100.0%	198	100.0%

※居所が施設・病院の者を除く

⑨回答者

回答者は当該高齢者の家族が 191 名 (93.6%) とほとんどを占めていた。行方不明になった本人も 16 名 (7.8%) あった。他はほとんどなかった (複数回答)。

表 27 回答者

		度数	列の N %
高齢者本人	なし	179	87.7%
	あり	16	7.8%
	無回答	9	4.4%
	合計	204	100.0%
家族	なし	6	2.9%
	あり	191	93.6%
	無回答	7	3.4%
	合計	204	100.0%
ケアマネジャー	なし	191	93.6%
	あり	6	2.9%
	無回答	7	3.4%
	合計	204	100.0%
地域包括支援センター	なし	196	96.1%
	あり	1	.5%
	無回答	7	3.4%
	合計	204	100.0%
その他	なし	196	96.1%
	あり	1	.5%
	無回答	7	3.4%
	合計	204	100.0%

2. サービス利用

①要介護認定

介護保険の要介護認定の状況を見ると、「要介護3」が39名(19.1%)と最も多かったが、僅差で「要介護2」が37名(18.1%)と続いた。要介護状態とはいえ、全体的にみると比較的軽度の者が多かった。なお、57名(27.9%)と3割近くが未申請であった。

男女別にみると、男性では「要介護3」が17名(16.0%)で最も多く、僅差で「要介護2」が15名(14.2%)と続いた。女性では「要介護2」と「要介護3」がそれぞれ22名(22.4%)ずつで最も多くなっていた。

表 28 要介護度と性別

	男性		女性		合計	
	度数	列のN%	度数	列のN%	度数	列のN%
要支援1	5	4.7%	3	3.1%	8	3.9%
要支援2	9	8.5%	4	4.1%	13	6.4%
要介護1	11	10.4%	11	11.2%	22	10.8%
要介護2	15	14.2%	22	22.4%	37	18.1%
要介護3	17	16.0%	22	22.4%	39	19.1%
要介護4	5	4.7%	10	10.2%	15	7.4%
要介護5	4	3.8%	1	1.0%	5	2.5%
申請中	2	1.9%	1	1.0%	3	1.5%
わからない	2	1.9%	1	1.0%	3	1.5%
非該当	35	33.0%	22	22.4%	57	27.9%
無回答	1	.9%	1	1.0%	2	1.0%
合計	106	100.0%	98	100.0%	204	100.0%

次に要介護認定状況と年齢をみると、前期高齢者では「要介護3」が9名(19.1%)、後期高齢者も「要介護3」が21名(19.3%)と最も多かった。それに対して超高齢者では「要介護2」が18名(37.5%)と最も多かった。

なお、「非該当」、つまり介護保険の申請をしていない者の割合は超高齢者で8名(16.7%)、後期高齢者が29名(26.6%)、前期高齢者では20名(42.6%)と、年齢が若い方が介護保険の申請をしていない割合が多かった。

表 29 要介護度と年齢

	前期高齢者 (74歳未満)		後期高齢者 (75~84歳)		超高齢者(85歳以上)		合計	
	度数	列のN%	度数	列のN%	度数	列のN%	度数	列のN%
要支援1	1	2.1%	6	5.5%	1	2.1%	8	3.9%
要支援2	1	2.1%	8	7.3%	4	8.3%	13	6.4%
要介護1	4	8.5%	15	13.8%	3	6.3%	22	10.8%
要介護2	6	12.8%	13	11.9%	18	37.5%	37	18.1%
要介護3	9	19.1%	21	19.3%	9	18.8%	39	19.1%
要介護4	3	6.4%	7	6.4%	5	10.4%	15	7.4%
要介護5	2	4.3%	3	2.8%	0	0.0%	5	2.5%
申請中	0	0.0%	3	2.8%	0	0.0%	3	1.5%
わからない	0	0.0%	3	2.8%	0	0.0%	3	1.5%
非該当	20	42.6%	29	26.6%	8	16.7%	57	27.9%
無回答	1	2.1%	1	.9%	0	0.0%	2	1.0%
合計	47	100.0%	109	100.0%	48	100.0%	204	100.0%

②サービス利用状況

行方不明時の介護保険サービス(市町村の独自サービスも含む)の利用状況(複数回答)をみると、最も多かったのが「通所介護」の73名(35.8%)であった。その他のサービスの利用については、いずれも少数であった。

なお、サービスの「利用なし」という回答が71名(34.8%)もあり、介護を必要とする状況にも関わらずサービスを利用していない者が多くいた。

前述の通り、3割近くが要介護認定の申請をしていないが、サービスの利用状況もそれを反映していると考えられる。

男女別にみると、通所介護が27名(25.5%)であるのに対して、女性では46名(46.9%)であった。逆に、「利用なし」は男性が47名(43.3%)なのに対して、女性は24名(24.5%)となっていた。

次にサービス利用と年齢をみると、人数は少ないが「短期入所」の利用は後期高齢者の利用が14名(12.8%)であるのに対して、前期高齢者は1名(2.1%)、後期高齢者は3名(6.3%)であった。「利用なし」は、いずれの年齢でも3割以上あった。

表 30 介護保険等のサービス利用と性別

	男性		女性		合計		
	度数	列の N %	度数	列の N %	度数	列の N %	
訪問介護	なし	96	90.6%	89	90.8%	185	90.7%
	あり	6	5.7%	6	6.1%	12	5.9%
	無回答	4	3.8%	3	3.1%	7	3.4%
	合計	106	100.0%	98	100.0%	204	100.0%
訪問看護	なし	101	95.3%	93	94.9%	194	95.1%
	あり	1	.9%	2	2.0%	3	1.5%
	無回答	4	3.8%	3	3.1%	7	3.4%
	合計	106	100.0%	98	100.0%	204	100.0%
訪問入浴	なし	102	96.2%	92	93.9%	194	95.1%
	あり	0	0.0%	3	3.1%	3	1.5%
	無回答	4	3.8%	3	3.1%	7	3.4%
	合計	106	100.0%	98	100.0%	204	100.0%
訪問リハ	なし	102	96.2%	94	95.9%	196	96.1%
	あり	0	0.0%	1	1.0%	1	.5%
	無回答	4	3.8%	3	3.1%	7	3.4%
	合計	106	100.0%	98	100.0%	204	100.0%
通所介護	なし	75	70.8%	49	50.0%	124	60.8%
	あり	27	25.5%	46	46.9%	73	35.8%
	無回答	4	3.8%	3	3.1%	7	3.4%
	合計	106	100.0%	98	100.0%	204	100.0%
通所リハ	なし	92	86.8%	83	84.7%	175	85.8%
	あり	10	9.4%	12	12.2%	22	10.8%
	無回答	4	3.8%	3	3.1%	7	3.4%
	合計	106	100.0%	98	100.0%	204	100.0%
短期入所	なし	97	91.5%	82	83.7%	179	87.7%
	あり	5	4.7%	13	13.3%	18	8.8%
	無回答	4	3.8%	3	3.1%	7	3.4%
	合計	106	100.0%	98	100.0%	204	100.0%
地域密着型サービス	なし	99	93.4%	90	91.8%	189	92.6%
	あり	3	2.8%	5	5.1%	8	3.9%
	無回答	4	3.8%	3	3.1%	7	3.4%
	合計	106	100.0%	98	100.0%	204	100.0%
居宅介護支援(ケアマネジメント)	なし	94	88.7%	89	90.8%	183	89.7%
	あり	8	7.5%	6	6.1%	14	6.9%
	無回答	4	3.8%	3	3.1%	7	3.4%
	合計	106	100.0%	98	100.0%	204	100.0%
特養など入所施設	なし	99	93.4%	95	96.9%	194	95.1%
	あり	3	2.8%	0	0.0%	3	1.5%
	無回答	4	3.8%	3	3.1%	7	3.4%
	合計	106	100.0%	98	100.0%	204	100.0%
配食サービス	なし	101	95.3%	93	94.9%	194	95.1%
	あり	1	.9%	2	2.0%	3	1.5%
	無回答	4	3.8%	3	3.1%	7	3.4%
	合計	106	100.0%	98	100.0%	204	100.0%
その他	なし	99	93.4%	90	91.8%	189	92.6%
	あり	3	2.8%	5	5.1%	8	3.9%
	無回答	4	3.8%	3	3.1%	7	3.4%
	合計	106	100.0%	98	100.0%	204	100.0%
利用なし	なし	55	51.9%	71	72.4%	126	61.8%
	あり	47	44.3%	24	24.5%	71	34.8%
	無回答	4	3.8%	3	3.1%	7	3.4%
	合計	106	100.0%	98	100.0%	204	100.0%
わからない	なし	98	92.5%	93	94.9%	191	93.6%
	あり	4	3.8%	2	2.0%	6	2.9%
	無回答	4	3.8%	3	3.1%	7	3.4%
	合計	106	100.0%	98	100.0%	204	100.0%

表 31 介護保険等のサービス利用と年齢

	前期高齢者 (74歳未満)		後期高齢者 (75~84歳)		超高齢者(85歳以上)		合計		
	度数	列の N %	度数	列の N %	度数	列の N %	度数	列の N %	
訪問介護	なし	42	89.4%	102	93.6%	41	85.4%	185	90.7%
	あり	2	4.3%	6	5.5%	4	8.3%	12	5.9%
	無回答	3	6.4%	1	.9%	3	6.3%	7	3.4%
	合計	47	100.0%	109	100.0%	48	100.0%	204	100.0%
訪問看護	なし	43	91.5%	108	99.1%	43	89.6%	194	95.1%
	あり	1	2.1%	0	0.0%	2	4.2%	3	1.5%
	無回答	3	6.4%	1	.9%	3	6.3%	7	3.4%
	合計	47	100.0%	109	100.0%	48	100.0%	204	100.0%
訪問入浴	なし	44	93.6%	107	98.2%	43	89.6%	194	95.1%
	あり	0	0.0%	1	.9%	2	4.2%	3	1.5%
	無回答	3	6.4%	1	.9%	3	6.3%	7	3.4%
	合計	47	100.0%	109	100.0%	48	100.0%	204	100.0%
訪問リハ	なし	44	93.6%	107	98.2%	45	93.8%	196	96.1%
	あり	0	0.0%	1	.9%	0	0.0%	1	.5%
	無回答	3	6.4%	1	.9%	3	6.3%	7	3.4%
	合計	47	100.0%	109	100.0%	48	100.0%	204	100.0%
通所介護	なし	30	63.8%	67	61.5%	27	56.3%	124	60.8%
	あり	14	29.8%	41	37.6%	18	37.5%	73	35.8%
	無回答	3	6.4%	1	.9%	3	6.3%	7	3.4%
	合計	47	100.0%	109	100.0%	48	100.0%	204	100.0%
通所リハ	なし	39	83.0%	97	89.0%	39	81.3%	175	85.8%
	あり	5	10.6%	11	10.1%	6	12.5%	22	10.8%
	無回答	3	6.4%	1	.9%	3	6.3%	7	3.4%
	合計	47	100.0%	109	100.0%	48	100.0%	204	100.0%
短期入所	なし	43	91.5%	94	86.2%	42	87.5%	179	87.7%
	あり	1	2.1%	14	12.8%	3	6.3%	18	8.8%
	無回答	3	6.4%	1	.9%	3	6.3%	7	3.4%
	合計	47	100.0%	109	100.0%	48	100.0%	204	100.0%
地域密着型サービス	なし	43	91.5%	103	94.5%	43	89.6%	189	92.6%
	あり	1	2.1%	5	4.6%	2	4.2%	8	3.9%
	無回答	3	6.4%	1	.9%	3	6.3%	7	3.4%
	合計	47	100.0%	109	100.0%	48	100.0%	204	100.0%
居宅介護支援(ケアマネジメント)	なし	42	89.4%	97	89.0%	44	91.7%	183	89.7%
	あり	2	4.3%	11	10.1%	1	2.1%	14	6.9%
	無回答	3	6.4%	1	.9%	3	6.3%	7	3.4%
	合計	47	100.0%	109	100.0%	48	100.0%	204	100.0%
特養など入所施設	なし	42	89.4%	108	99.1%	44	91.7%	194	95.1%
	あり	2	4.3%	0	0.0%	1	2.1%	3	1.5%
	無回答	3	6.4%	1	.9%	3	6.3%	7	3.4%
	合計	47	100.0%	109	100.0%	48	100.0%	204	100.0%
配食サービス	なし	44	93.6%	106	97.2%	44	91.7%	194	95.1%
	あり	0	0.0%	2	1.8%	1	2.1%	3	1.5%
	無回答	3	6.4%	1	.9%	3	6.3%	7	3.4%
	合計	47	100.0%	109	100.0%	48	100.0%	204	100.0%
その他	なし	41	87.2%	103	94.5%	45	93.8%	189	92.6%
	あり	3	6.4%	5	4.6%	0	0.0%	8	3.9%
	無回答	3	6.4%	1	.9%	3	6.3%	7	3.4%
	合計	47	100.0%	109	100.0%	48	100.0%	204	100.0%
利用なし	なし	27	57.4%	69	63.3%	30	62.5%	126	61.8%
	あり	17	36.2%	39	35.8%	15	31.3%	71	34.8%
	無回答	3	6.4%	1	.9%	3	6.3%	7	3.4%
	合計	47	100.0%	109	100.0%	48	100.0%	204	100.0%
わからない	なし	42	89.4%	105	96.3%	44	91.7%	191	93.6%
	あり	2	4.3%	3	2.8%	1	2.1%	6	2.9%
	無回答	3	6.4%	1	.9%	3	6.3%	7	3.4%
	合計	47	100.0%	109	100.0%	48	100.0%	204	100.0%

次に、行方不明時に利用していた医療保険サービス（複数回答）であるが、「通院・在宅精神療法」が55名（27.0%）で最も多かった。他のサービスの利用は少なく、利用されていないサービスもあった。なお、84名（41.2%）と4割以上は医療保険サービスを利用していなかった。

男女別にみると「通院・在宅精神療法」では女性が34名（34.7%）で、男性は21名（19.8%）と女性の利用している割合は高かった。

表 32 医療保険のサービス利用と性別

	男性		女性		合計		
	度数	列の N %	度数	列の N %	度数	列の N %	
通院・在宅精神療法	なし	81	76.4%	58	59.2%	139	68.1%
	あり	21	19.8%	34	34.7%	55	27.0%
	無回答	4	3.8%	6	6.1%	10	4.9%
	合計	106	100.0%	98	100.0%	204	100.0%
精神科ショートケア	なし	101	95.3%	92	93.9%	193	94.6%
	あり	1	.9%	0	0.0%	1	.5%
	無回答	4	3.8%	6	6.1%	10	4.9%
	合計	106	100.0%	98	100.0%	204	100.0%
精神科デイケア	なし	97	91.5%	91	92.9%	188	92.2%
	あり	5	4.7%	1	1.0%	6	2.9%
	無回答	4	3.8%	6	6.1%	10	4.9%
	合計	106	100.0%	98	100.0%	204	100.0%
精神科ナイトケア	なし	102	96.2%	92	93.9%	194	95.1%
	あり	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	無回答	4	3.8%	6	6.1%	10	4.9%
	合計	106	100.0%	98	100.0%	204	100.0%
精神科デイ・ナイト・ケア	なし	102	96.2%	92	93.9%	194	95.1%
	あり	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	無回答	4	3.8%	6	6.1%	10	4.9%
	合計	106	100.0%	98	100.0%	204	100.0%
重度認知症デイケア	なし	101	95.3%	88	89.8%	189	92.6%
	あり	1	.9%	4	4.1%	5	2.5%
	無回答	4	3.8%	6	6.1%	10	4.9%
	合計	106	100.0%	98	100.0%	204	100.0%
精神科訪問看護	なし	101	95.3%	91	92.9%	192	94.1%
	あり	1	.9%	1	1.0%	2	1.0%
	無回答	4	3.8%	6	6.1%	10	4.9%
	合計	106	100.0%	98	100.0%	204	100.0%
その他医療保険サービス	なし	86	81.1%	81	82.7%	167	81.9%
	あり	16	15.1%	11	11.2%	27	13.2%
	無回答	4	3.8%	6	6.1%	10	4.9%
	合計	106	100.0%	98	100.0%	204	100.0%
利用なし	なし	53	50.0%	57	58.2%	110	53.9%
	あり	49	46.2%	35	35.7%	84	41.2%
	無回答	4	3.8%	6	6.1%	10	4.9%
	合計	106	100.0%	98	100.0%	204	100.0%
わからない	なし	92	86.8%	84	85.7%	176	86.3%
	あり	10	9.4%	8	8.2%	18	8.8%
	無回答	4	3.8%	6	6.1%	10	4.9%
	合計	106	100.0%	98	100.0%	204	100.0%

次に医療保険サービスの利用と年齢をみると、「通院・在宅精神療法」の利用は、前期高齢者は17名（36.2%）、後期高齢者は30名（27.5%）、超高齢者では8名（16.7%）となっていた。

その他の医療保険サービスについては、「その他医療保険サービスが前期高齢者で2名（4.3%）、後期高齢者で15名（13.8%）、超高齢者で10名（20.8%）となっていた。

表 33 医療保険のサービス利用と年齢

		前期高齢者 (74歳未満)		後期高齢者 (75~84歳)		超高齢者(85歳以上)		合計	
		度数	列の N %	度数	列の N %	度数	列の N %	度数	列の N %
通院・在宅精神療法	なし	26	55.3%	76	69.7%	37	77.1%	139	68.1%
	あり	17	36.2%	30	27.5%	8	16.7%	55	27.0%
	無回答	4	8.5%	3	2.8%	3	6.3%	10	4.9%
	合計	47	100.0%	109	100.0%	48	100.0%	204	100.0%
精神科ショートケア	なし	43	91.5%	105	96.3%	45	93.8%	193	94.6%
	あり	0	0.0%	1	.9%	0	0.0%	1	.5%
	無回答	4	8.5%	3	2.8%	3	6.3%	10	4.9%
	合計	47	100.0%	109	100.0%	48	100.0%	204	100.0%
精神科デイケア	なし	41	87.2%	102	93.6%	45	93.8%	188	92.2%
	あり	2	4.3%	4	3.7%	0	0.0%	6	2.9%
	無回答	4	8.5%	3	2.8%	3	6.3%	10	4.9%
	合計	47	100.0%	109	100.0%	48	100.0%	204	100.0%
精神科ナイトケア	なし	43	91.5%	106	97.2%	45	93.8%	194	95.1%
	あり	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	無回答	4	8.5%	3	2.8%	3	6.3%	10	4.9%
	合計	47	100.0%	109	100.0%	48	100.0%	204	100.0%
精神科デイ・ナイト・ケア	なし	43	91.5%	106	97.2%	45	93.8%	194	95.1%
	あり	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	無回答	4	8.5%	3	2.8%	3	6.3%	10	4.9%
	合計	47	100.0%	109	100.0%	48	100.0%	204	100.0%
重度認知症デイケア	なし	41	87.2%	103	94.5%	45	93.8%	189	92.6%
	あり	2	4.3%	3	2.8%	0	0.0%	5	2.5%
	無回答	4	8.5%	3	2.8%	3	6.3%	10	4.9%
	合計	47	100.0%	109	100.0%	48	100.0%	204	100.0%
精神科訪問看護	なし	42	89.4%	106	97.2%	44	91.7%	192	94.1%
	あり	1	2.1%	0	0.0%	1	2.1%	2	1.0%
	無回答	4	8.5%	3	2.8%	3	6.3%	10	4.9%
	合計	47	100.0%	109	100.0%	48	100.0%	204	100.0%
その他医療保険サービス	なし	41	87.2%	91	83.5%	35	72.9%	167	81.9%
	あり	2	4.3%	15	13.8%	10	20.8%	27	13.2%
	無回答	4	8.5%	3	2.8%	3	6.3%	10	4.9%
	合計	47	100.0%	109	100.0%	48	100.0%	204	100.0%
利用なし	なし	25	53.2%	62	56.9%	23	47.9%	110	53.9%
	あり	18	38.3%	44	40.4%	22	45.8%	84	41.2%
	無回答	4	8.5%	3	2.8%	3	6.3%	10	4.9%
	合計	47	100.0%	109	100.0%	48	100.0%	204	100.0%
わからない	なし	41	87.2%	95	87.2%	40	83.3%	176	86.3%
	あり	2	4.3%	11	10.1%	5	10.4%	18	8.8%
	無回答	4	8.5%	3	2.8%	3	6.3%	10	4.9%
	合計	47	100.0%	109	100.0%	48	100.0%	204	100.0%

3. 認知症の治療等

①投薬状況

行方不明時に服用していた薬（複数回答）をみると、認知症治療薬については「アリセプト（ジェネリックを含む）」が最も多く 67 名（32.8%）であった。その他に「漢方薬」が 26 名（12.7%）、「その他」も 25 名（12.3%）あった。なお、「飲んでいなかった」が 34 名（16.7%）、「わからない」も 42 名（20.6%）あった。

男女別にみると、「アリセプト（ジェネリックを含む）」の服用は女性が 39 名（39.8%）、男性が 28 名（26.4%）、「向精神薬」は女性が 9 名（9.2%）、男性が 3 名（2.8%）であった。「飲んでいなかった」は男性が 22 名（20.8%）、女性が 12 名（12.2%）であった。

表 34 服用していた薬と性別

		男性		女性		合計	
		度数	列の N %	度数	列の N %	度数	列の N %
アリセプト（ジェネリックを含む）	なし	72	67.9%	56	57.1%	128	62.7%
	あり	28	26.4%	39	39.8%	67	32.8%
	無回答	6	5.7%	3	3.1%	9	4.4%
	合計	106	100.0%	98	100.0%	204	100.0%
レミニール	なし	95	89.6%	92	93.9%	187	91.7%
	あり	5	4.7%	3	3.1%	8	3.9%
	無回答	6	5.7%	3	3.1%	9	4.4%
合計	106	100.0%	98	100.0%	204	100.0%	
リバスタッチ・イクセロンパッチ	なし	95	89.6%	92	93.9%	187	91.7%
	あり	5	4.7%	3	3.1%	8	3.9%
	無回答	6	5.7%	3	3.1%	9	4.4%
	合計	106	100.0%	98	100.0%	204	100.0%
メマリー	なし	89	84.0%	81	82.7%	170	83.3%
	あり	11	10.4%	14	14.3%	25	12.3%
	無回答	6	5.7%	3	3.1%	9	4.4%
	合計	106	100.0%	98	100.0%	204	100.0%
向精神薬	なし	97	91.5%	86	87.8%	183	89.7%
	あり	3	2.8%	9	9.2%	12	5.9%
	無回答	6	5.7%	3	3.1%	9	4.4%
	合計	106	100.0%	98	100.0%	204	100.0%
漢方薬	なし	84	79.2%	85	86.7%	169	82.8%
	あり	16	15.1%	10	10.2%	26	12.7%
	無回答	6	5.7%	3	3.1%	9	4.4%
	合計	106	100.0%	98	100.0%	204	100.0%
その他	なし	86	81.1%	84	85.7%	170	83.3%
	あり	14	13.2%	11	11.2%	25	12.3%
	無回答	6	5.7%	3	3.1%	9	4.4%
	合計	106	100.0%	98	100.0%	204	100.0%
飲んでいないかった	なし	78	73.6%	83	84.7%	161	78.9%
	あり	22	20.8%	12	12.2%	34	16.7%
	無回答	6	5.7%	3	3.1%	9	4.4%
	合計	106	100.0%	98	100.0%	204	100.0%
わからない	なし	75	70.8%	78	79.6%	153	75.0%
	あり	25	23.6%	17	17.3%	42	20.6%
	無回答	6	5.7%	3	3.1%	9	4.4%
	合計	106	100.0%	98	100.0%	204	100.0%

行方不明時に服用していた薬と年齢をみると、「漢方薬」は前期高齢者が 9 名（19.1%）、後期高齢者が 15 名（13.8%）、超高齢者が 2 名（4.2%）になっていた。逆に「飲んでいなかった」は前期高齢者が 3 名（6.4%）、後期高齢者が 17 名（15.6%）、後期高齢者が 14 名（29.2%）となっていた。

表 35 服用していた薬と年齢

		前期高齢者（74歳未満）		後期高齢者（75～84歳）		超高齢者（85歳以上）		合計	
		度数	列の N %	度数	列の N %	度数	列の N %	度数	列の N %
アリセプト（ジェネリックを含む）	なし	31	66.0%	65	59.6%	32	66.7%	128	62.7%
	あり	13	27.7%	40	36.7%	14	29.2%	67	32.8%
	無回答	3	6.4%	4	3.7%	2	4.2%	9	4.4%
	合計	47	100.0%	109	100.0%	48	100.0%	204	100.0%
レミニール	なし	42	89.4%	100	91.7%	45	93.8%	187	91.7%
	あり	2	4.3%	5	4.6%	1	2.1%	8	3.9%
	無回答	3	6.4%	4	3.7%	2	4.2%	9	4.4%
合計	47	100.0%	109	100.0%	48	100.0%	204	100.0%	
リバスタッチ・イクセロンパッチ	なし	42	89.4%	100	91.7%	45	93.8%	187	91.7%
	あり	2	4.3%	5	4.6%	1	2.1%	8	3.9%
	無回答	3	6.4%	4	3.7%	2	4.2%	9	4.4%
	合計	47	100.0%	109	100.0%	48	100.0%	204	100.0%
メマリー	なし	40	85.1%	89	81.7%	41	85.4%	170	83.3%
	あり	4	8.5%	16	14.7%	5	10.4%	25	12.3%
	無回答	3	6.4%	4	3.7%	2	4.2%	9	4.4%
	合計	47	100.0%	109	100.0%	48	100.0%	204	100.0%
向精神薬	なし	39	83.0%	98	89.9%	46	95.8%	183	89.7%
	あり	5	10.6%	7	6.4%	0	0.0%	12	5.9%
	無回答	3	6.4%	4	3.7%	2	4.2%	9	4.4%
	合計	47	100.0%	109	100.0%	48	100.0%	204	100.0%
漢方薬	なし	35	74.5%	90	82.6%	44	91.7%	169	82.8%
	あり	9	19.1%	15	13.8%	2	4.2%	26	12.7%
	無回答	3	6.4%	4	3.7%	2	4.2%	9	4.4%
	合計	47	100.0%	109	100.0%	48	100.0%	204	100.0%
その他	なし	41	87.2%	91	83.5%	38	79.2%	170	83.3%
	あり	3	6.4%	14	12.8%	8	16.7%	25	12.3%
	無回答	3	6.4%	4	3.7%	2	4.2%	9	4.4%
	合計	47	100.0%	109	100.0%	48	100.0%	204	100.0%
飲んでいないかった	なし	41	87.2%	88	80.7%	32	66.7%	161	78.9%
	あり	3	6.4%	17	15.6%	14	29.2%	34	16.7%
	無回答	3	6.4%	4	3.7%	2	4.2%	9	4.4%
	合計	47	100.0%	109	100.0%	48	100.0%	204	100.0%
わからない	なし	31	66.0%	84	77.1%	38	79.2%	153	75.0%
	あり	13	27.7%	21	19.3%	8	16.7%	42	20.6%
	無回答	3	6.4%	4	3.7%	2	4.2%	9	4.4%
	合計	47	100.0%	109	100.0%	48	100.0%	204	100.0%

次に行方不明になる前の 1 ヶ月間に服用していた薬に変化（複数回答）があるかをみると、「とくに変化はなかった」が 103 名（50.5%）と半数を占めていた。

男女別にみると、「とくに変化はなかった」は男性が 46 名（43.4%）、女性が 57 名（58.2%）で、逆に「飲んでいなかった」は男性が 23 名（21.7%）、女性が 9 名（9.2%）となっていた。

表 36 行方不明前 1 ヶ月間の薬の変化と性別

		男性		女性		合計	
		度数	列の N %	度数	列の N %	度数	列の N %
新しい薬をもらった	なし	94	88.7%	81	82.7%	175	85.8%
	あり	3	2.8%	8	8.2%	11	5.4%
	無回答	9	8.5%	9	9.2%	18	8.8%
	合計	106	100.0%	98	100.0%	204	100.0%
薬の量が変った	なし	91	85.8%	86	87.8%	177	86.8%
	あり	6	5.7%	3	3.1%	9	4.4%
	無回答	9	8.5%	9	9.2%	18	8.8%
	合計	106	100.0%	98	100.0%	204	100.0%
とくに変化はなかった	なし	51	48.1%	32	32.7%	83	40.7%
	あり	46	43.4%	57	58.2%	103	50.5%
	無回答	9	8.5%	9	9.2%	18	8.8%
	合計	106	100.0%	98	100.0%	204	100.0%
飲んでいなかった	なし	74	69.8%	80	81.6%	154	75.5%
	あり	23	21.7%	9	9.2%	32	15.7%
	無回答	9	8.5%	9	9.2%	18	8.8%
	合計	106	100.0%	98	100.0%	204	100.0%
わからない	なし	78	73.6%	78	79.6%	156	76.5%
	あり	19	17.9%	11	11.2%	30	14.7%
	無回答	9	8.5%	9	9.2%	18	8.8%
	合計	106	100.0%	98	100.0%	204	100.0%

行方不明前 1 ヶ月間の薬の変化と年齢をみると、「飲んでいなかった」は前期高齢者が 3 名 (6.4%)、後期高齢者が 15 名 (13.8%)、超高齢者が 14 名 (29.2%) となっていた。

表 36 行方不明前 1 ヶ月間の薬の変化と年齢

		前期高齢者 (74歳未満)		後期高齢者 (75~84歳)		超高齢者 (85歳以上)		合計	
		度数	列の N %	度数	列の N %	度数	列の N %	度数	列の N %
新しい薬をもらった	なし	39	83.0%	93	85.3%	43	89.6%	175	85.8%
	あり	3	6.4%	7	6.4%	1	2.1%	11	5.4%
	無回答	5	10.6%	9	8.3%	4	8.3%	18	8.8%
	合計	47	100.0%	109	100.0%	48	100.0%	204	100.0%
薬の量が変った	なし	38	80.9%	95	87.2%	44	91.7%	177	86.8%
	あり	4	8.5%	5	4.6%	0	0.0%	9	4.4%
	無回答	5	10.6%	9	8.3%	4	8.3%	18	8.8%
	合計	47	100.0%	109	100.0%	48	100.0%	204	100.0%
とくに変化はなかった	なし	20	42.6%	41	37.6%	22	45.8%	83	40.7%
	あり	22	46.8%	59	54.1%	22	45.8%	103	50.5%
	無回答	5	10.6%	9	8.3%	4	8.3%	18	8.8%
	合計	47	100.0%	109	100.0%	48	100.0%	204	100.0%
飲んでいなかった	なし	39	83.0%	85	78.0%	30	62.5%	154	75.5%
	あり	3	6.4%	15	13.8%	14	29.2%	32	15.7%
	無回答	5	10.6%	9	8.3%	4	8.3%	18	8.8%
	合計	47	100.0%	109	100.0%	48	100.0%	204	100.0%
わからない	なし	32	68.1%	87	79.8%	37	77.1%	156	76.5%
	あり	10	21.3%	13	11.9%	7	14.6%	30	14.7%
	無回答	5	10.6%	9	8.3%	4	8.3%	18	8.8%
	合計	47	100.0%	109	100.0%	48	100.0%	204	100.0%

行方不明になる前の 1 年間の入院の状況であるが、「入院はしていなかった」が 152 名 (74.5%) と最も多かった。入院した者では「認知症以外の病気や怪我の治療で入院」が 35 名 (17.2%) で最も多かった。

男女別にみると「認知症以外の病気や怪我の治療で入院」が男性では 24 名 (22.6%)、女性では 11 名 (11.2%) となっていた。また、「入院はしていなかつた」は男性が 70 名 (66.0%)、女性が 82 名 (83.7%) となっていた。

となっていた。

表 34 行方不明前 1 年間の入院と性別

		男性		女性		合計	
		度数	列の N %	度数	列の N %	度数	列の N %
認知症の診断のために入院	なし	100	94.3%	94	95.9%	194	95.1%
	あり	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	無回答	6	5.7%	4	4.1%	10	4.9%
	合計	106	100.0%	98	100.0%	204	100.0%
認知症の治療のために入院	なし	99	93.4%	93	94.9%	192	94.1%
	あり	1	0.9%	1	1.0%	2	1.0%
	無回答	6	5.7%	4	4.1%	10	4.9%
	合計	106	100.0%	98	100.0%	204	100.0%
認知症以外の病気や怪我の治療で入院	なし	76	71.7%	83	84.7%	159	77.9%
	あり	24	22.6%	11	11.2%	35	17.2%
	無回答	6	5.7%	4	4.1%	10	4.9%
	合計	106	100.0%	98	100.0%	204	100.0%
入院はしていなかった	なし	30	28.3%	12	12.2%	42	20.6%
	あり	70	66.0%	82	83.7%	152	74.5%
	無回答	6	5.7%	4	4.1%	10	4.9%
	合計	106	100.0%	98	100.0%	204	100.0%
入院はしたが、詳しくはわからない	なし	97	91.5%	94	95.9%	191	93.6%
	あり	3	2.8%	0	0.0%	3	1.5%
	無回答	6	5.7%	4	4.1%	10	4.9%
	合計	106	100.0%	98	100.0%	204	100.0%
わからない	なし	98	92.5%	94	95.9%	192	94.1%
	あり	2	1.9%	0	0.0%	2	1.0%
	無回答	6	5.7%	4	4.1%	10	4.9%
	合計	106	100.0%	98	100.0%	204	100.0%

年齢による違いをみると、「認知症以外の病気や怪我の治療で入院」が男性が 5 名 (10.6%)、女性が 22 名 (20.2%) であった。

表 35 行方不明前 1 年間の入院と年齢

		前期高齢者 (74歳未満)		後期高齢者 (75~84歳)		超高齢者 (85歳以上)		合計	
		度数	列の N %	度数	列の N %	度数	列の N %	度数	列の N %
認知症の診断のために入院	なし	44	93.6%	106	97.2%	44	91.7%	194	95.1%
	あり	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	無回答	3	6.4%	3	2.8%	4	8.3%	10	4.9%
	合計	47	100.0%	109	100.0%	48	100.0%	204	100.0%
認知症の治療のために入院	なし	43	91.5%	105	96.3%	44	91.7%	192	94.1%
	あり	1	2.1%	1	0.9%	0	0.0%	2	1.0%
	無回答	3	6.4%	3	2.8%	4	8.3%	10	4.9%
	合計	47	100.0%	109	100.0%	48	100.0%	204	100.0%
認知症以外の病気や怪我の治療で入院	なし	39	83.0%	84	77.1%	36	75.0%	159	77.9%
	あり	5	10.6%	22	20.2%	8	16.7%	35	17.2%
	無回答	3	6.4%	3	2.8%	4	8.3%	10	4.9%
	合計	47	100.0%	109	100.0%	48	100.0%	204	100.0%
入院はしていなかった	なし	8	17.0%	25	22.9%	9	18.8%	42	20.6%
	あり	36	76.6%	81	74.3%	35	72.9%	152	74.5%
	無回答	3	6.4%	3	2.8%	4	8.3%	10	4.9%
	合計	47	100.0%	109	100.0%	48	100.0%	204	100.0%
入院はしたが、詳しくはわからない	なし	43	91.5%	105	96.3%	43	89.6%	191	93.6%
	あり	1	2.1%	1	0.9%	1	2.1%	3	1.5%
	無回答	3	6.4%	3	2.8%	4	8.3%	10	4.9%
	合計	47	100.0%	109	100.0%	48	100.0%	204	100.0%
わからない	なし	43	91.5%	105	96.3%	44	91.7%	192	94.1%
	あり	1	2.1%	1	0.9%	0	0.0%	2	1.0%
	無回答	3	6.4%	3	2.8%	4	8.3%	10	4.9%
	合計	47	100.0%	109	100.0%	48	100.0%	204	100.0%

4. 認知症の診断

①診断の有無

行方不明時に認知症と「診断されていた」のは143名（70.1%）と7割であった。

性別でみると、「診断されていた」は男性が63名（59.4%）で、女性は80名（81.6%）となっていた。

表 36 行方不明時の認知症の診断と性別

	男性		女性		合計	
	度数	列の N %	度数	列の N %	度数	列の N %
疑いも診断もされていない	6	5.7%	4	4.1%	10	4.9%
疑いはあったが診断はされていない	32	30.2%	13	13.3%	45	22.1%
診断されていた	63	59.4%	80	81.6%	143	70.1%
わからない	3	2.8%	0	0.0%	3	1.5%
無回答	2	1.9%	1	1.0%	3	1.5%
合計	106	100.0%	98	100.0%	204	100.0%

行方不明時の認知症の診断と年齢は「疑いはあったが診断はされていない」が、前期高齢者は15名（31.9%）、後期高齢者は20名（18.3%）、超高齢者で10名（20.8%）であった。また「診断されていた」は前期高齢者で28名（59.6%）、後期高齢者で81名（74.3%）、超高齢者で34名（70.8%）となっていた。

表 37 行方不明時の認知症の診断と年齢

	前期高齢者 (74歳未満)		後期高齢者 (75~84歳)		超高齢者(85歳以上)		合計	
	度数	列の N %	度数	列の N %	度数	列の N %	度数	列の N %
疑いも診断もされていない	3	6.4%	6	5.5%	1	2.1%	10	4.9%
疑いはあったが診断はされていない	15	31.9%	20	18.3%	10	20.8%	45	22.1%
診断されていた	28	59.6%	81	74.3%	34	70.8%	143	70.1%
わからない	0	0.0%	1	.9%	2	4.2%	3	1.5%
無回答	1	2.1%	1	.9%	1	2.1%	3	1.5%
合計	47	100.0%	109	100.0%	48	100.0%	204	100.0%

調査時に生存している者について認知症の診断について聞いたところ、「認知症と診断されている」は92名（45.1%）であった。診断時期は平成20年以降が約8割であった。なお、「他界している」も89名（43.6%）と4割以上を占めていた。

男女の違いをみると、「認知症と診断されている」は男性52名（49.1%）、女性40名（40.8%）であった。また、「他界している」は男性が41名（38.7%）、女性は48名（49.0%）であった。

表 38 現在の認知症の診断と性別

	男性		女性		合計	
	度数	列の N %	度数	列の N %	度数	列の N %
認知症と診断されていない	5	4.7%	7	7.1%	12	5.9%
他界している	41	38.7%	48	49.0%	89	43.6%
わからない	5	4.7%	0	0.0%	5	2.5%
認知症と診断されている	52	49.1%	40	40.8%	92	45.1%
無回答	3	2.8%	3	3.1%	6	2.9%
合計	106	100.0%	98	100.0%	204	100.0%

現在の認知症の診断と年齢をみると、「認知症と診断されている」は前期高齢者が19名（40.4%）、後期高齢者が51名（46.8%）、超高齢者が22名（45.8%）となっていた。また、「他界している」は前期高齢者が21名（44.7%）、後期高齢者は49名（45.0%）、超高齢者は19名（39.6%）であった。

表 39 現在の認知症の診断と年齢

	前期高齢者 (74歳未満)		後期高齢者 (75~84歳)		超高齢者(85歳以上)		合計	
	度数	列の N %	度数	列の N %	度数	列の N %	度数	列の N %
認知症と診断されていない	5	10.6%	6	5.5%	1	2.1%	12	5.9%
他界している	21	44.7%	49	45.0%	19	39.6%	89	43.6%
わからない	2	4.3%	1	.9%	2	4.2%	5	2.5%
認知症と診断されている	19	40.4%	51	46.8%	22	45.8%	92	45.1%
無回答	0	0.0%	2	1.8%	4	8.3%	6	2.9%
合計	47	100.0%	109	100.0%	48	100.0%	204	100.0%

②認知症の診断

調査時に生存しており「認知症と診断されている」92名、および、調査時に「他界している」等の回答があっても認知症を診断した医師および診断名が記載されているものを以下に示す。

認知症を診断した医師は「精神科医」の32名（29.1%）と「神経内科医」の31名（28.2%）が多かった。なお、男女による違いをみると、「精神科医」は男性が15名（25.9%）、女性が17名（32.7%）、「神経内科医」が男性19名（32.8%）、女性が12名（23.1%）となっていた。

表 40 認知症を診断した医師と性別

	男性		女性		合計	
	度数	列の N %	度数	列の N %	度数	列の N %
精神科医	15	25.9%	17	32.7%	32	29.1%
神経内科医	19	32.8%	12	23.1%	31	28.2%
老年科医	1	1.7%	2	3.8%	3	2.7%
1~3以外の認知症に関する専門的な医師	10	17.2%	8	15.4%	18	16.4%
その他の医師	10	17.2%	10	19.2%	20	18.2%
わからない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
複数回答	2	3.4%	1	1.9%	3	2.7%
無回答	1	1.7%	2	3.8%	3	2.7%
合計	58	100.0%	52	100.0%	110	100.0%

年齢による違いをみると、前期高齢者では「精神科医」が9名（45.0%）、「神経内科医」は4名（20.0%）、後期高齢者では「精神科医」が19名（29.7%）、「神経内科医」は19名（29.7%）、超高齢者で「精神科医」が4名（15.4%）、「神経内科医」は8名（30.8%）あった。

表 41 認知症を診断した医師と年齢

	前期高齢者 (74歳未満)		後期高齢者 (75～84歳)		超高齢者(85歳以上)		合計	
	度数	列のN%	度数	列のN%	度数	列のN%	度数	列のN%
精神科医	9	45.0%	19	29.7%	4	15.4%	32	29.1%
神経内科医	4	20.0%	19	29.7%	8	30.8%	31	28.2%
老年科医	2	10.0%	1	1.6%	0	0.0%	3	2.7%
1～3以外の認知症に関する専門的な医師	3	15.0%	12	18.8%	3	11.5%	18	16.4%
その他の医師	2	10.0%	9	14.1%	9	34.6%	20	18.2%
わからない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
複数回答	0	0.0%	2	3.1%	1	3.8%	3	2.7%
無回答	0	0.0%	2	3.1%	1	3.8%	3	2.7%
合計	20	100.0%	64	100.0%	26	100.0%	110	100.0%

認知症の診断名は「アルツハイマー病」が55名（50.0%）と半数を占めていた。次は「認知症とだけ診断」の40名（36.4%）であった。

男女別にみると、男性では「アルツハイマー病」が23名（39.7%）、「認知症とだけ診断」が24名（41.4%）、女性は「アルツハイマー病」が32名（61.5%）、「認知症とだけ診断」が16名（30.8%）となっていた。

表 42 認知症の診断名と性別

	男性		女性		合計	
	度数	列のN%	度数	列のN%	度数	列のN%
認知症とだけ診断	24	41.4%	16	30.8%	40	36.4%
アルツハイマー病	23	39.7%	32	61.5%	55	50.0%
脳血管性認知症	5	8.6%	0	0.0%	5	4.5%
レビー小体型認知症	2	3.4%	0	0.0%	2	1.8%
前頭側頭型認知症	3	5.2%	3	5.8%	6	5.5%
その他	1	1.7%	0	0.0%	1	.9%
無回答	0	0.0%	1	1.9%	1	.9%
合計	58	100.0%	52	100.0%	110	100.0%

認知症の診断名と年齢をみると、前期高齢者では「アルツハイマー病」は10名（50.0%）、「認知症とだけ診断」は7名（35.0%）、後期高齢者では「アルツハイマー病」は35名（54.7%）、「認知症とだけ診断」は18名（28.1%）、超高齢者では「アルツハイマー病」10名（38.5%）、「認知症とだけ診断」は15名（57.7%）となっていた。

表 43 認知症の診断名と年齢

	前期高齢者 (74歳未満)		後期高齢者 (75～84歳)		超高齢者(85歳以上)		合計	
	度数	列のN%	度数	列のN%	度数	列のN%	度数	列のN%
認知症とだけ診断	7	35.0%	18	28.1%	15	57.7%	40	36.4%
アルツハイマー病	10	50.0%	35	54.7%	10	38.5%	55	50.0%
脳血管性認知症	1	5.0%	4	6.3%	0	0.0%	5	4.5%
レビー小体型認知症	0	0.0%	2	3.1%	0	0.0%	2	1.8%
前頭側頭型認知症	2	10.0%	4	6.3%	0	0.0%	6	5.5%
その他	0	0.0%	1	1.6%	0	0.0%	1	.9%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	1	3.8%	1	.9%
合計	20	100.0%	64	100.0%	26	100.0%	110	100.0%

③受診状況

認知症の疑いを持った時期は、「70歳代」が101名（49.5%）と約半数であった。次は「80歳代」の60名（29.4%）であり、両者で約8割を占めた。

なお、男女の違いをみると、「70歳代」が男性52名（49.1%）、女性が49名（50.0%）であり、「80歳代」では男性が34名（32.1%）、女性は26名（26.5%）となっていた。

表 44 認知症の疑いを持った時期と性別

	男性		女性		合計	
	度数	列のN%	度数	列のN%	度数	列のN%
成人前	0	0.0%	1	1.0%	1	.5%
20歳代	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
30歳代	0	0.0%	1	1.0%	1	.5%
40歳代	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
50歳代	2	1.9%	2	2.0%	4	2.0%
60歳代	12	11.3%	17	17.3%	29	14.2%
70歳代	52	49.1%	49	50.0%	101	49.5%
80歳代	34	32.1%	26	26.5%	60	29.4%
90歳代～	0	0.0%	2	2.0%	2	1.0%
わからない	4	3.8%	0	0.0%	4	2.0%
無回答	2	1.9%	0	0.0%	2	1.0%
合計	106	100.0%	98	100.0%	204	100.0%

認知症の疑いをもった具体的な年齢については57名から回答があった。50歳代が2名、60歳代が13名、70歳代が29名、80歳代が13名であった。

認知症の疑いを持ってから受診するまでの期間は、「～1年」が83名（40.7%）、「1～3年」が57名（27.9%）であり、3年までで約7割が受診していた。しかし、「受診していない」も17名（8.3%）いた。

なお、男女の違いをみると、「～1年」は男性が32名（30.2%）、女性が51名（52.0%）で、「1～3年」が男性で36名（34.0%）、女性が21名（21.4%）となっていた。

表 45 認知症の疑いを持ってから受診するまでの期間と性別

	男性		女性		合計	
	度数	列の N %	度数	列の N %	度数	列の N %
～1年	32	30.2%	51	52.0%	83	40.7%
1～3年	36	34.0%	21	21.4%	57	27.9%
3～6年	6	5.7%	16	16.3%	22	10.8%
6～9年	2	1.9%	1	1.0%	3	1.5%
9～12年	2	1.9%	1	1.0%	3	1.5%
12～15年	1	.9%	1	1.0%	2	1.0%
15年以上	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
受診していない	12	11.3%	5	5.1%	17	8.3%
わからない	9	8.5%	2	2.0%	11	5.4%
無回答	6	5.7%	0	0.0%	6	2.9%
合計	106	100.0%	98	100.0%	204	100.0%

年齢で見ると、前期高齢者は「～1年」が26名(55.3%)、「1～3年」は9名(19.1%)、後期高齢者は「～1年」が42名(38.5%)、「1～3年」は37名(33.9%)、超高齢者は「～1年」が15名(31.3%)、「1～3年」は11名(22.9%)であった。

表 46 認知症の疑いを持ってから受診するまでの期間と年齢

	前期高齢者 (74歳未満)		後期高齢者 (75～84歳)		超高齢者(85歳以上)		合計	
	度数	列の N %	度数	列の N %	度数	列の N %	度数	列の N %
～1年	26	55.3%	42	38.5%	15	31.3%	83	40.7%
1～3年	9	19.1%	37	33.9%	11	22.9%	57	27.9%
3～6年	5	10.6%	8	7.3%	9	18.8%	22	10.8%
6～9年	0	0.0%	1	.9%	2	4.2%	3	1.5%
9～12年	0	0.0%	1	.9%	2	4.2%	3	1.5%
12～15年	1	2.1%	1	.9%	0	0.0%	2	1.0%
15年以上	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
受診していない	3	6.4%	10	9.2%	4	8.3%	17	8.3%
わからない	0	0.0%	7	6.4%	4	8.3%	11	5.4%
無回答	3	6.4%	2	1.8%	1	2.1%	6	2.9%
合計	47	100.0%	109	100.0%	48	100.0%	204	100.0%

行方不明時の医療機関の受診状況であるが、「当通院していた」が151名(74.0%)と7割以上を占めていた。一方、「受診歴はあったが中断していた」が23名(11.3%)と1割以上あった。

なお、男女にみると「当時通院していた」は男性が71名(67.0%)、女性が80名(81.6%)であった。

表 47 受診状況と性別

	男性		女性		合計	
	度数	列の N %	度数	列の N %	度数	列の N %
当時通院していた	71	67.0%	80	81.6%	151	74.0%
当時往診を受けていた	6	5.7%	2	2.0%	8	3.9%
当時入院中であった	2	1.9%	0	0.0%	2	1.0%
受診歴はあったが中断していた	12	11.3%	11	11.2%	23	11.3%
わからない	9	8.5%	1	1.0%	10	4.9%
無回答	6	5.7%	4	4.1%	10	4.9%
合計	106	100.0%	98	100.0%	204	100.0%

年齢で見ると、「当時通院していた」は、前期高齢者で39名(83.0%)、後期高齢者で82名(75.2%)、超高齢者で30名(62.5%)となっていた。

表 48 受診状況と年齢

	前期高齢者 (74歳未満)		後期高齢者 (75～84歳)		超高齢者(85歳以上)		合計	
	度数	列の N %	度数	列の N %	度数	列の N %	度数	列の N %
当時通院していた	39	83.0%	82	75.2%	30	62.5%	151	74.0%
当時往診を受けていた	3	6.4%	3	2.8%	2	4.2%	8	3.9%
当時入院中であった	1	2.1%	1	.9%	0	0.0%	2	1.0%
受診歴はあったが中断していた	2	4.3%	13	11.9%	8	16.7%	23	11.3%
わからない	0	0.0%	7	6.4%	3	6.3%	10	4.9%
無回答	2	4.3%	3	2.8%	5	10.4%	10	4.9%
合計	47	100.0%	109	100.0%	48	100.0%	204	100.0%

当時受診していた診療科については(複数回答)については「1～4以外の科」が66名(32.4%)と最も多く、「神経内科医」が53名(26.0%)、「精神科」が46名(22.5%)であった。

男女別で見ると「1～4以外の科」で男性は39名(36.8%)、女性は27名(27.6%)であった。なお人数は少なかったが「1～3以外の認知症を専門とする科」においては男性が7名(6.6%)、女性が19名(19.4%)となっていた。

表 49 当時の診療科と性別

	男性		女性		合計		
	度数	列の N %	度数	列の N %	度数	列の N %	
(1)精神科	なし	77	72.6%	71	72.4%	148	72.5%
	あり	23	21.7%	23	23.5%	46	22.5%
	無回答	6	5.7%	4	4.1%	10	4.9%
	合計	106	100.0%	98	100.0%	204	100.0%
(2)神経内科	なし	69	65.1%	72	73.5%	141	69.1%
	あり	31	29.2%	22	22.4%	53	26.0%
	無回答	6	5.7%	4	4.1%	10	4.9%
	合計	106	100.0%	98	100.0%	204	100.0%
(3)老年科	なし	98	92.5%	88	89.8%	186	91.2%
	あり	2	1.9%	6	6.1%	8	3.9%
	無回答	6	5.7%	4	4.1%	10	4.9%
	合計	106	100.0%	98	100.0%	204	100.0%
(4)1～3以外の認知症を専門とする科	なし	93	87.7%	75	76.5%	168	82.4%
	あり	7	6.6%	19	19.4%	26	12.7%
	無回答	6	5.7%	4	4.1%	10	4.9%
	合計	106	100.0%	98	100.0%	204	100.0%
1～4以外の科	なし	61	57.5%	67	68.4%	128	62.7%
	あり	39	36.8%	27	27.6%	66	32.4%
	無回答	6	5.7%	4	4.1%	10	4.9%
わからない	なし	90	84.9%	93	94.9%	183	89.7%
	あり	10	9.4%	1	1.0%	11	5.4%
	無回答	6	5.7%	4	4.1%	10	4.9%
	合計	106	100.0%	98	100.0%	204	100.0%

当時の診療科を年齢別にみると、前期高齢者は「精神科」が14名(29.8%)、「神経内科」が11名(23.4%)、後期高齢者は「精神科」が27名(24.8%)、「神経内科」が32名(29.4%)、超高齢者は「精神科」が5名(10.4%)、「神経内科医」が10名(20.8%)となっていた。

表 50 当時の診療科と年齢

	前期高齢者 (74歳未満)		後期高齢者 (75~84歳)		超高齢者(85歳以上)		合計		
	度数	列のN%	度数	列のN%	度数	列のN%	度数	列のN%	
(1)精神科	なし	31	66.0%	80	73.4%	37	77.1%	148	72.5%
	あり	14	29.8%	27	24.8%	5	10.4%	46	22.5%
	無回答	2	4.3%	2	1.8%	6	12.5%	10	4.9%
	合計	47	100.0%	109	100.0%	48	100.0%	204	100.0%
(2)神経内科	なし	34	72.3%	75	68.8%	32	66.7%	141	69.1%
	あり	11	23.4%	32	29.4%	10	20.8%	53	26.0%
	無回答	2	4.3%	2	1.8%	6	12.5%	10	4.9%
	合計	47	100.0%	109	100.0%	48	100.0%	204	100.0%
(3)老年科	なし	43	91.5%	102	93.6%	41	85.4%	186	91.2%
	あり	2	4.3%	5	4.6%	1	2.1%	8	3.9%
	無回答	2	4.3%	2	1.8%	6	12.5%	10	4.9%
	合計	47	100.0%	109	100.0%	48	100.0%	204	100.0%
(4)1~3以外の認知症を専門とする科	なし	42	89.4%	88	80.7%	38	79.2%	168	82.4%
	あり	3	6.4%	19	17.4%	4	8.3%	26	12.7%
	無回答	2	4.3%	2	1.8%	6	12.5%	10	4.9%
	合計	47	100.0%	109	100.0%	48	100.0%	204	100.0%
1~4以外の科	なし	29	61.7%	76	69.7%	23	47.9%	128	62.7%
	あり	16	34.0%	31	28.4%	19	39.6%	66	32.4%
	無回答	2	4.3%	2	1.8%	6	12.5%	10	4.9%
	合計	47	100.0%	109	100.0%	48	100.0%	204	100.0%
わからない	なし	44	93.6%	101	92.7%	38	79.2%	183	89.7%
	あり	1	2.1%	6	5.5%	4	8.3%	11	5.4%
	無回答	2	4.3%	2	1.8%	6	12.5%	10	4.9%
	合計	47	100.0%	109	100.0%	48	100.0%	204	100.0%

④認知症の程度

行方不明時の認知症の程度に関しては、医師以外によるFAST (Functional Assessment Staging : Reisberg B. et al., 1984, 本間・臼井,2003) の評価ではあるが、正常(Stage 1,2)が32名(28.1%)、軽度認知障害(Stage 3)が16名(7.8%)、軽度認知症(Stage 4)が20名(9.8%)、中等度認知症(Stage 5,6)が最も多く107(52.4%)、そして重度認知症(Stage 7)が18名(8.8%)であった。

なお、男女による違いはほとんどなかった。

表 51 F A S T と性別

	男性		女性		合計	
	度数	列のN%	度数	列のN%	度数	列のN%
ステージ1	3	2.8%	4	4.1%	7	3.4%
ステージ2	14	13.2%	11	11.2%	25	12.3%
ステージ3	9	8.5%	7	7.1%	16	7.8%
ステージ4	10	9.4%	10	10.2%	20	9.8%
ステージ5	13	12.3%	16	16.3%	29	14.2%
ステージ6	39	36.8%	39	39.8%	78	38.2%
ステージ7	10	9.4%	8	8.2%	18	8.8%
無回答	8	7.5%	3	3.1%	11	5.4%
合計	106	100.0%	98	100.0%	204	100.0%

FASTと年齢であるが、最も人数が多い「ステージ6」では前期高齢者は17名(36.2%)、後期高齢者は40名(36.7%)、超高齢者は21名(43.8%)であった。

表 52 F A S T と年齢

	前期高齢者 (74歳未満)		後期高齢者 (75~84歳)		超高齢者(85歳以上)		合計	
	度数	列のN%	度数	列のN%	度数	列のN%	度数	列のN%
ステージ1	4	8.5%	3	2.8%	0	0.0%	7	3.4%
ステージ2	4	8.5%	15	13.8%	6	12.5%	25	12.3%
ステージ3	5	10.6%	6	5.5%	5	10.4%	16	7.8%
ステージ4	6	12.8%	11	10.1%	3	6.3%	20	9.8%
ステージ5	5	10.6%	18	16.5%	6	12.5%	29	14.2%
ステージ6	17	36.2%	40	36.7%	21	43.8%	78	38.2%
ステージ7	3	6.4%	10	9.2%	5	10.4%	18	8.8%
無回答	3	6.4%	6	5.5%	2	4.2%	11	5.4%
合計	47	100.0%	109	100.0%	48	100.0%	204	100.0%

5. 行方不明時の状況

①徘徊が始まるまでの期間

認知症の疑いを持ってから徘徊が始まるまでの期間は、「～3年」が95名(46.6%)と最も多く、「3～6年」の41名(20.1%)を合わせると、6年までが6割以上を占めていた。

なお、男女による違いは最も人数が多い「～3年」で男性が51名(48.1%)、女性で44名(44.9%)であった。「3～6年」では男性が20名(18.9%)、女性が21名(21.4%)であった。

表53 認知症の疑いを持ってから徘徊が始まるまでの期間と性別

	男性		女性		合計	
	度数	列のN%	度数	列のN%	度数	列のN%
～3年	51	48.1%	44	44.9%	95	46.6%
3～6年	20	18.9%	21	21.4%	41	20.1%
6～9年	8	7.5%	11	11.2%	19	9.3%
9～12年	1	.9%	2	2.0%	3	1.5%
12～15年	0	0.0%	1	1.0%	1	.5%
15年～	0	0.0%	1	1.0%	1	.5%
わからない	13	12.3%	9	9.2%	22	10.8%
無回答	13	12.3%	9	9.2%	22	10.8%
合計	106	100.0%	98	100.0%	204	100.0%

年齢による違いをみると、「～3年」では前期高齢者が21名(44.7%)、後期高齢者が56名(51.4%)、超高齢者は18名(37.5%)であった。「3～6年」では前期高齢者は11名(23.4%)、後期高齢者は18名(16.5%)、超高齢者では12名(25.0%)であった。

表54 認知症の疑いを持ってから徘徊が始まるまでの期間と年齢

	前期高齢者 (74歳未満)		後期高齢者 (75～84歳)		超高齢者(85歳以上)		合計	
	度数	列のN%	度数	列のN%	度数	列のN%	度数	列のN%
～3年	21	44.7%	56	51.4%	18	37.5%	95	46.6%
3～6年	11	23.4%	18	16.5%	12	25.0%	41	20.1%
6～9年	4	8.5%	8	7.3%	7	14.6%	19	9.3%
9～12年	0	0.0%	0	0.0%	3	6.3%	3	1.5%
12～15年	1	2.1%	0	0.0%	0	0.0%	1	.5%
15年～	0	0.0%	1	.9%	0	0.0%	1	.5%
わからない	6	12.8%	13	11.9%	3	6.3%	22	10.8%
無回答	4	8.5%	13	11.9%	5	10.4%	22	10.8%
合計	47	100.0%	109	100.0%	48	100.0%	204	100.0%

②行方不明の回数

これまでに行方不明になった回数は、「1回」が62名(30.4%)と最も多かったが、「4～10回」も43名(21.1%)いた。これまでに2回以上の複数回行方

不明になった高齢者が6割近くいた。

男女による違いをみると、一番人数が多い「1回」では男性が30名(28.3%)、女性が32名(32.7%)であった。

表55 行方不明回数と性別

	男性		女性		合計	
	度数	列のN%	度数	列のN%	度数	列のN%
1回	30	28.3%	32	32.7%	62	30.4%
2回	21	19.8%	12	12.2%	33	16.2%
3回	10	9.4%	16	16.3%	26	12.7%
4～10回	18	17.0%	25	25.5%	43	21.1%
11～20回	7	6.6%	1	1.0%	8	3.9%
21回以上	4	3.8%	2	2.0%	6	2.9%
わからない	4	3.8%	2	2.0%	6	2.9%
無回答	12	11.3%	8	8.2%	20	9.8%
合計	106	100.0%	98	100.0%	204	100.0%

行方不明回数と年齢をみると、「1回」は前期高齢者で10名(21.3%)、後期高齢者で40名(36.7%)、超高齢者で12名(25.0%)であった。

表56 行方不明回数と年齢

	前期高齢者 (74歳未満)		後期高齢者 (75～84歳)		超高齢者(85歳以上)		合計	
	度数	列のN%	度数	列のN%	度数	列のN%	度数	列のN%
1回	10	21.3%	40	36.7%	12	25.0%	62	30.4%
2回	10	21.3%	14	12.8%	9	18.8%	33	16.2%
3回	7	14.9%	14	12.8%	5	10.4%	26	12.7%
4～10回	10	21.3%	23	21.1%	10	20.8%	43	21.1%
11～20回	3	6.4%	4	3.7%	1	2.1%	8	3.9%
21回以上	1	2.1%	2	1.8%	3	6.3%	6	2.9%
わからない	2	4.3%	2	1.8%	2	4.2%	6	2.9%
無回答	4	8.5%	10	9.2%	6	12.5%	20	9.8%
合計	47	100.0%	109	100.0%	48	100.0%	204	100.0%

行方不明回の年平均回数であるが134名(65.7%)は無回答であった。回答のあったケースでは「1回」が25名(12.3%)と最も多かった。

男女による違いは「1回」では男性が11名(10.4%)、女性が14名(14.3%)であった。「5回以上」は男性で14名(13.2%)、女性で6名(6.1%)であった。

表57 行方不明年平均回数と性別

	男性		女性		合計	
	度数	列のN%	度数	列のN%	度数	列のN%
1回	11	10.4%	14	14.3%	25	12.3%
2回	6	5.7%	7	7.1%	13	6.4%
3回	4	3.8%	6	6.1%	10	4.9%
4回	0	0.0%	2	2.0%	2	1.0%
5回以上	14	13.2%	6	6.1%	20	9.8%
無回答	71	67.0%	63	64.3%	134	65.7%
合計	106	100.0%	98	100.0%	204	100.0%

年齢による違いをみると、「1回」は前期高齢者で7名(14.9%)、後期高齢者で11名(10.1%)、超高齢者で7名(14.6%)であった。「5回以上」は前期高齢者が3名(6.4%)、後期高齢者は12名(11.0%)、超高齢者は5名(10.4%)であった。

表 58 行方不明年平均回数と年齢

	前期高齢者 (74歳未満)		後期高齢者 (75~84歳)		超高齢者(85歳以上)		合計	
	度数	列のN%	度数	列のN%	度数	列のN%	度数	列のN%
1回	7	14.9%	11	10.1%	7	14.6%	25	12.3%
2回	2	4.3%	8	7.3%	3	6.3%	13	6.4%
3回	5	10.6%	3	2.8%	2	4.2%	10	4.9%
4回	2	4.3%	0	0.0%	0	0.0%	2	1.0%
5回以上	3	6.4%	12	11.0%	5	10.4%	20	9.8%
無回答	28	59.6%	75	68.8%	31	64.6%	134	65.7%
合計	47	100.0%	109	100.0%	48	100.0%	204	100.0%

③行方不明になった季節と時間帯

行方不明になった季節であるが、「冬」が58名(28.4%)と最も多かった。それに対して「夏」は34名(16.7%)と少なかった。ただし、今回の調査では地域のデータが無いので、季節と気温などの環境との関係はわからない。

なお、男女でみると、男性では「秋」と「冬」がそれぞれ26名(24.5%)ずつで、次が「夏」の19名(17.9%)であった。女性では「冬」は32名(32.7%)、次が「春」の22名(22.4%)であった。

表 59 行方不明になった季節と性別

	男性		女性		合計	
	度数	列のN%	度数	列のN%	度数	列のN%
春	17	16.0%	22	22.4%	39	19.1%
夏	19	17.9%	15	15.3%	34	16.7%
秋	26	24.5%	16	16.3%	42	20.6%
冬	26	24.5%	32	32.7%	58	28.4%
わからない	3	2.8%	6	6.1%	9	4.4%
複数回答	10	9.4%	5	5.1%	15	7.4%
無回答	5	4.7%	2	2.0%	7	3.4%
合計	106	100.0%	98	100.0%	204	100.0%

行方不明になった季節と年齢をみると、前期高齢者は「春」が13名(27.7%)、後期高齢者は「冬」が33名(30.3%)、超高齢者も「冬」が13名(27.1%)と最も多かった。

表 60 行方不明になった季節と年齢

	前期高齢者 (74歳未満)		後期高齢者 (75~84歳)		超高齢者(85歳以上)		合計	
	度数	列のN%	度数	列のN%	度数	列のN%	度数	列のN%
春	13	27.7%	18	16.5%	8	16.7%	39	19.1%
夏	8	17.0%	18	16.5%	8	16.7%	34	16.7%
秋	10	21.3%	20	18.3%	12	25.0%	42	20.6%
冬	12	25.5%	33	30.3%	13	27.1%	58	28.4%
わからない	2	4.3%	4	3.7%	3	6.3%	9	4.4%
複数回答	2	4.3%	10	9.2%	3	6.3%	15	7.4%
無回答	0	0.0%	6	5.5%	1	2.1%	7	3.4%
合計	47	100.0%	109	100.0%	48	100.0%	204	100.0%

行方不明になった時間帯をみると、「12~16時」が52名(25.5%)と最も多く、僅差で「16~20時」が50名(24.5%)と続き、両者で半数を占めた。

男女による違いは、男性は「12~16時」では21名(19.8%)、「16~20時」では30名(28.3%)、女性は「12~16時」では31名(31.6%)、「16~20時」では20名(20.4%)であった。

表 61 行方不明時間帯と性別

	男性		女性		合計	
	度数	列のN%	度数	列のN%	度数	列のN%
0~4時	5	4.7%	9	9.2%	14	6.9%
4~8時	8	7.5%	9	9.2%	17	8.3%
8~12時	13	12.3%	10	10.2%	23	11.3%
12~16時	21	19.8%	31	31.6%	52	25.5%
16~20時	30	28.3%	20	20.4%	50	24.5%
20~24時	7	6.6%	5	5.1%	12	5.9%
複数回答	8	7.5%	3	3.1%	11	5.4%
わからない	7	6.6%	10	10.2%	17	8.3%
無回答	7	6.6%	1	1.0%	8	3.9%
合計	106	100.0%	98	100.0%	204	100.0%

時間帯と年齢をみると、前期高齢者は「12~16時」で15名(31.9%)、「16~20時」で13名(27.7%)、後期高齢者は「12~16時」で26名(23.9%)、「16~20時」で24名(22.0%)、超高齢者は「12~16時」で11名(22.9%)、「16~20時」で13名(27.1%)であった。

表 62 行方不明時間帯と年齢

	前期高齢者 (74歳未満)		後期高齢者 (75~84歳)		超高齢者(85歳以上)		合計	
	度数	列のN%	度数	列のN%	度数	列のN%	度数	列のN%
0~4時	2	4.3%	7	6.4%	5	10.4%	14	6.9%
4~8時	4	8.5%	12	11.0%	1	2.1%	17	8.3%
8~12時	6	12.8%	11	10.1%	6	12.5%	23	11.3%
12~16時	15	31.9%	26	23.9%	11	22.9%	52	25.5%
16~20時	13	27.7%	24	22.0%	13	27.1%	50	24.5%
20~24時	4	8.5%	6	5.5%	2	4.2%	12	5.9%
複数回答	1	2.1%	8	7.3%	2	4.2%	11	5.4%
わからない	1	2.1%	9	8.3%	7	14.6%	17	8.3%
無回答	1	2.1%	6	5.5%	1	2.1%	8	3.9%
合計	47	100.0%	109	100.0%	48	100.0%	204	100.0%

6. 介護者

①当時の介護者

当時の介護者であるが（複数回答）、「配偶者」と「子」がともに95名（46.6%）であり、半数近くを占めていた。

男女による違いは、男性の場合、「配偶者」が介護者であったのは61名（57.5%）、女性の場合、「配偶者」が介護者であったのは34名（34.7%）であった。男性の場合、「子」が介護者であったのは36名（34.0%）、女性の場合、「子」が介護者であったのは59名（60.2%）であった。

表 63 介護者と性別

		男性		女性		合計	
		度数	列の N %	度数	列の N %	度数	列の N %
		配偶者	なし	35	33.0%	63	64.3%
	あり	61	57.5%	34	34.7%	95	46.6%
	無回答	10	9.4%	1	1.0%	11	5.4%
	合計	106	100.0%	98	100.0%	204	100.0%
子	なし	60	56.6%	38	38.8%	98	48.0%
	あり	36	34.0%	59	60.2%	95	46.6%
	無回答	10	9.4%	1	1.0%	11	5.4%
	合計	106	100.0%	98	100.0%	204	100.0%
親	なし	96	90.6%	97	99.0%	193	94.6%
	あり	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	無回答	10	9.4%	1	1.0%	11	5.4%
	合計	106	100.0%	98	100.0%	204	100.0%
その他親族	なし	86	81.1%	90	91.8%	176	86.3%
	あり	10	9.4%	7	7.1%	17	8.3%
	無回答	10	9.4%	1	1.0%	11	5.4%
	合計	106	100.0%	98	100.0%	204	100.0%
ケアサービス従事者	なし	91	85.8%	91	92.9%	182	89.2%
	あり	5	4.7%	6	6.1%	11	5.4%
	無回答	10	9.4%	1	1.0%	11	5.4%
	合計	106	100.0%	98	100.0%	204	100.0%
その他	なし	91	85.8%	91	92.9%	182	89.2%
	あり	5	4.7%	6	6.1%	11	5.4%
	無回答	10	9.4%	1	1.0%	11	5.4%
	合計	106	100.0%	98	100.0%	204	100.0%
わからない	なし	94	88.7%	95	96.9%	189	92.6%
	あり	2	1.9%	2	2.0%	4	2.0%
	無回答	10	9.4%	1	1.0%	11	5.4%
	合計	106	100.0%	98	100.0%	204	100.0%

介護者と年齢の関係をみると、前期高齢者の場合、「配偶者」が介護者であったのは29名（61.7%）、後期高齢者の場合、「配偶者」が介護者であったのは51名（46.8%）、超高齢者の場合、「配偶者」が介護者であったのは15名（31.3%）であった。

「子」が介護者の場合、前期高齢者では15名（31.9%）、後期高齢者では45名（41.3%）、超高齢者では35名（72.9%）であった。

表 64 介護者と年齢

		前期高齢者 (74歳未満)		後期高齢者 (75~84歳)		超高齢者(85歳以上)		合計	
		度数	列の N %	度数	列の N %	度数	列の N %	度数	列の N %
		配偶者	なし	15	31.9%	52	47.7%	31	64.6%
	あり	29	61.7%	51	46.8%	15	31.3%	95	46.6%
	無回答	3	6.4%	6	5.5%	2	4.2%	11	5.4%
	合計	47	100.0%	109	100.0%	48	100.0%	204	100.0%
子	なし	29	61.7%	58	53.2%	11	22.9%	98	48.0%
	あり	15	31.9%	45	41.3%	35	72.9%	95	46.6%
	無回答	3	6.4%	6	5.5%	2	4.2%	11	5.4%
	合計	47	100.0%	109	100.0%	48	100.0%	204	100.0%
親	なし	44	93.6%	103	94.5%	46	95.8%	193	94.6%
	あり	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	無回答	3	6.4%	6	5.5%	2	4.2%	11	5.4%
	合計	47	100.0%	109	100.0%	48	100.0%	204	100.0%
その他親族	なし	42	89.4%	92	84.4%	42	87.5%	176	86.3%
	あり	2	4.3%	11	10.1%	4	8.3%	17	8.3%
	無回答	3	6.4%	6	5.5%	2	4.2%	11	5.4%
	合計	47	100.0%	109	100.0%	48	100.0%	204	100.0%
ケアサービス従事者	なし	41	87.2%	98	89.9%	43	89.6%	182	89.2%
	あり	3	6.4%	5	4.6%	3	6.3%	11	5.4%
	無回答	3	6.4%	6	5.5%	2	4.2%	11	5.4%
	合計	47	100.0%	109	100.0%	48	100.0%	204	100.0%
その他	なし	41	87.2%	96	88.1%	45	93.8%	182	89.2%
	あり	3	6.4%	7	6.4%	1	2.1%	11	5.4%
	無回答	3	6.4%	6	5.5%	2	4.2%	11	5.4%
	合計	47	100.0%	109	100.0%	48	100.0%	204	100.0%
わからない	なし	43	91.5%	101	92.7%	45	93.8%	189	92.6%
	あり	1	2.1%	2	1.8%	1	2.1%	4	2.0%
	無回答	3	6.4%	6	5.5%	2	4.2%	11	5.4%
	合計	47	100.0%	109	100.0%	48	100.0%	204	100.0%

②行方不明の危機感

当該高齢者が行方不明になる危機感を介護者がもっていたかについては、「感じていた」が109名(53.4%)と過半数を占めていたが、「感じていなかった」も80名(39.2%)と4割を占めていた。

なお、男女による違いをみると男性では「感じていた」が53名(50.0%)、女性では56名(57.1%)、「感じていなかった」は男性では42名(39.6%)、女性では38名(38.8%)であった。

表 65 行方不明危機感と性別

	男性		女性		合計	
	度数	列のN%	度数	列のN%	度数	列のN%
感じていた	53	50.0%	56	57.1%	109	53.4%
感じていなかった	42	39.6%	38	38.8%	80	39.2%
わからない	6	5.7%	4	4.1%	10	4.9%
無回答	5	4.7%	0	0.0%	5	2.5%
合計	106	100.0%	98	100.0%	204	100.0%

年齢による違いをみると、「感じていた」は前期高齢者では25名(53.2%)、後期高齢者では55名(50.5%)、超高齢者では29名(60.4%)、「感じていなかった」は前期高齢者では22名(46.8%)、後期高齢者では40名(36.7%)、超高齢者では18名(37.5%)であった。

表 66 行方不明危機感と年齢

	前期高齢者 (74歳未満)		後期高齢者 (75~84歳)		超高齢者(85歳以上)		合計	
	度数	列のN%	度数	列のN%	度数	列のN%	度数	列のN%
感じていた	25	53.2%	55	50.5%	29	60.4%	109	53.4%
感じていなかった	22	46.8%	40	36.7%	18	37.5%	80	39.2%
わからない	0	0.0%	9	8.3%	1	2.1%	10	4.9%
無回答	0	0.0%	5	4.6%	0	0.0%	5	2.5%
合計	47	100.0%	109	100.0%	48	100.0%	204	100.0%

7. 行方不明になった状況

①行方不明になった場所

行方不明になった場所は、「自宅から」が157名(77.0%)と8割近くを占めていた。次に多かったのは「それ以外から」も32名(15.7%)であった。

男女による違いをみると、男性では「自宅から」が78名(73.6%),「それ以外から」は18名(17.0%)であった。女性は「自宅から」が79名(80.6%),「それ以外から」は14名(14.3%)であった。

表 67 行方不明になった場所と性別

	男性		女性		合計	
	度数	列のN%	度数	列のN%	度数	列のN%
自宅から	78	73.6%	79	80.6%	157	77.0%
わからない	3	2.8%	0	0.0%	3	1.5%
自宅付近から	5	4.7%	5	5.1%	10	4.9%
それ以外から	18	17.0%	14	14.3%	32	15.7%
無回答	2	1.9%	0	0.0%	2	1.0%
合計	106	100.0%	98	100.0%	204	100.0%

年齢による違いをみると、前期高齢者は「自宅から」が35名(74.5%),「それ以外から」は8名(17.0%)であった。後期高齢者は「自宅から」が83名(76.1%),「それ以外から」は16名(14.7%)であった。超高齢者は「自宅から」が39名(81.3%),「それ以外から」は8名(16.7%)であった。

表 68 行方不明になった場所と年齢

	前期高齢者 (74歳未満)		後期高齢者 (75~84歳)		超高齢者(85歳以上)		合計	
	度数	列のN%	度数	列のN%	度数	列のN%	度数	列のN%
自宅から	35	74.5%	83	76.1%	39	81.3%	157	77.0%
わからない	0	0.0%	3	2.8%	0	0.0%	3	1.5%
自宅付近から	4	8.5%	5	4.6%	1	2.1%	10	4.9%
それ以外から	8	17.0%	16	14.7%	8	16.7%	32	15.7%
無回答	0	0.0%	2	1.8%	0	0.0%	2	1.0%
合計	47	100.0%	109	100.0%	48	100.0%	204	100.0%

前問で「自宅付近から」と「それ以外から」と回答した42名について、行方不明になった場所を聞いたところ「その他」が14名(33.3%),「商店など衆人のいる施設内」が10名(23.0%)であった。

男女別にみると、男性は「商店など衆人のいる施設内」で2名(8.7%),「その他」で9名(39.1%)であった。女性は「商店など衆人のいる施設内」で8名(42.1%),「その他」で5名(26.3%)となっていた。

表 69 行方不明になった場所と性別②

	男性		女性		合計	
	度数	列のN%	度数	列のN%	度数	列のN%
商店など衆人のいる施設内	2	8.7%	8	42.1%	10	23.8%
人通りの多い路上	2	8.7%	4	21.1%	6	14.3%
人通りの少ない路上	7	30.4%	2	10.5%	9	21.4%
その他	9	39.1%	5	26.3%	14	33.3%
わからない	1	4.3%	0	0.0%	1	2.4%
無回答	2	8.7%	0	0.0%	2	4.8%
合計	23	100.0%	19	100.0%	42	100.0%

42人の年齢による違いをみると、「商店など衆人のいる施設内」では前期高齢者は2名(16.7%),後期高齢者は5名(23.8%),超高齢者では3名(33.3%)となっていた。「その他」では前期高齢者が4名(33.3%),後期高齢者は7名(33.3%),超高齢者は3名(33.3%)となっていた。

表 70 行方不明になった場所と年齢②

	前期高齢者 (74歳未満)		後期高齢者 (75~84歳)		超高齢者(85歳以上)		合計	
	度数	列のN%	度数	列のN%	度数	列のN%	度数	列のN%
商店など衆人のいる施設内	2	16.7%	5	23.8%	3	33.3%	10	23.8%
人通りの多い路上	2	16.7%	3	14.3%	1	11.1%	6	14.3%
人通りの少ない路上	3	25.0%	4	19.0%	2	22.2%	9	21.4%
その他	4	33.3%	7	33.3%	3	33.3%	14	33.3%
わからない	0	0.0%	1	4.8%	0	0.0%	1	2.4%
無回答	1	8.3%	1	4.8%	0	0.0%	2	4.8%
合計	12	100.0%	21	100.0%	9	100.0%	42	100.0%

②行方不明時にやっていたこと

行方不明になった時にしていたことであるが、「それ以外」が101名(49.5%)と半数を占め、様々な時に行方不明になっていた。

男女別にみると、男性は「それ以外」が47名(44.3%),「散歩などいつも決まった行動中」が34名(32.1%),女性は「それ以外」が54名(55.1%)と過半数を占め、次は「わからない」の27名(27.6%)であった。

表 71 行方不明時のやっていたことと性別

	男性		女性		合計	
	度数	列のN%	度数	列のN%	度数	列のN%
散歩などいつも決まった行動中	34	32.1%	15	15.3%	49	24.0%
わからない	19	17.9%	27	27.6%	46	22.5%
それ以外	47	44.3%	54	55.1%	101	49.5%
無回答	6	5.7%	2	2.0%	8	3.9%
合計	106	100.0%	98	100.0%	204	100.0%

行方不明時にやっていたことと年齢であるが、前期高齢者では「それ以外」が22名(46.8%)、「散歩などいつも決まった行動中」が14名(29.8%)、後期高齢者は「それ以外」が56名(51.4%)、「散歩などいつも決まった行動中」が27名(24.8%)、超高齢者は「それ以外」が23名(47.9%)、「散歩などいつも決まった行動中」が8名(16.7%)であった。

表72 行方不明時のやっていたことと年齢

	前期高齢者 (74歳未満)		後期高齢者 (75~84歳)		超高齢者(85歳以上)		合計	
	度数	列のN%	度数	列のN%	度数	列のN%	度数	列のN%
散歩などいつも決まった行動中	14	29.8%	27	24.8%	8	16.7%	49	24.0%
わからない	10	21.3%	20	18.3%	16	33.3%	46	22.5%
それ以外	22	46.8%	56	51.4%	23	47.9%	101	49.5%
無回答	1	2.1%	6	5.5%	1	2.1%	8	3.9%
合計	47	100.0%	109	100.0%	48	100.0%	204	100.0%

③行方不明時に一緒にいた人

行方不明時に一緒にいた人であるが、「一人だった」が151名(74.0%)で7割以上を占めていた。次に多かったのは「配偶者と一緒」の30名(14.7%)であった(複数回答)。

なお、男女による違いをみると、男性では「一人だった」が75人(70.8%)、「配偶者と一緒」が17名(16.0%)、女性では「一人だった」が76名(77.6%)、「配偶者と一緒」が13名(13.3%)であった。

表73 行方不明時に一緒にいた人と性別

		男性		女性		合計	
		度数	列のN%	度数	列のN%	度数	列のN%
一人だった	なし	29	27.4%	21	21.4%	50	24.5%
	あり	75	70.8%	76	77.6%	151	74.0%
	無回答	2	1.9%	1	1.0%	3	1.5%
	合計	106	100.0%	98	100.0%	204	100.0%
配偶者と一緒	なし	87	82.1%	84	85.7%	171	83.8%
	あり	17	16.0%	13	13.3%	30	14.7%
	無回答	2	1.9%	1	1.0%	3	1.5%
	合計	106	100.0%	98	100.0%	204	100.0%
子と一緒	なし	103	97.2%	91	92.9%	194	95.1%
	あり	1	0.9%	6	6.1%	7	3.4%
	無回答	2	1.9%	1	1.0%	3	1.5%
	合計	106	100.0%	98	100.0%	204	100.0%
親と一緒	なし	104	98.1%	97	99.0%	201	98.5%
	あり	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	無回答	2	1.9%	1	1.0%	3	1.5%
	合計	106	100.0%	98	100.0%	204	100.0%
その他親族と一緒	なし	101	95.3%	95	96.9%	196	96.1%
	あり	3	2.8%	2	2.0%	5	2.5%
	無回答	2	1.9%	1	1.0%	3	1.5%
	合計	106	100.0%	98	100.0%	204	100.0%
ケアサービス従事者と一緒	なし	102	96.2%	96	98.0%	198	97.1%
	あり	2	1.9%	1	1.0%	3	1.5%
	無回答	2	1.9%	1	1.0%	3	1.5%
	合計	106	100.0%	98	100.0%	204	100.0%
その他	なし	100	94.3%	95	96.9%	195	95.6%
	あり	4	3.8%	2	2.0%	6	2.9%
	無回答	2	1.9%	1	1.0%	3	1.5%
	合計	106	100.0%	98	100.0%	204	100.0%
わからない	なし	101	95.3%	95	96.9%	196	96.1%
	あり	3	2.8%	2	2.0%	5	2.5%
	無回答	2	1.9%	1	1.0%	3	1.5%
	合計	106	100.0%	98	100.0%	204	100.0%

行方不明時に一緒にいた人と年齢をみると、前期高齢者は「一人だった」が33名(70.2%)、「配偶者と一緒」が8名(17.0%)、後期高齢者は「一人だった」が79名(72.5%)、「配偶者と一緒」が16名(14.7%)、超高齢者は「一人だった」が39名(81.3%)、「配偶者と一緒」が6名(12.5%)であった。

表74 行方不明時に一緒にいた人と年齢

		前期高齢者 (74歳未満)		後期高齢者 (75~84歳)		超高齢者(85歳以上)		合計	
		度数	列のN%	度数	列のN%	度数	列のN%	度数	列のN%
一人だった	なし	13	27.7%	28	25.7%	9	18.8%	50	24.5%
	あり	33	70.2%	79	72.5%	39	81.3%	151	74.0%
	無回答	1	2.1%	2	1.8%	0	0.0%	3	1.5%
	合計	47	100.0%	109	100.0%	48	100.0%	204	100.0%
配偶者と一緒	なし	38	80.9%	91	83.5%	42	87.5%	171	83.8%
	あり	8	17.0%	16	14.7%	6	12.5%	30	14.7%
	無回答	1	2.1%	2	1.8%	0	0.0%	3	1.5%
	合計	47	100.0%	109	100.0%	48	100.0%	204	100.0%
子と一緒	なし	45	95.7%	102	93.6%	47	97.9%	194	95.1%
	あり	1	2.1%	5	4.6%	1	2.1%	7	3.4%
	無回答	1	2.1%	2	1.8%	0	0.0%	3	1.5%
	合計	47	100.0%	109	100.0%	48	100.0%	204	100.0%
親と一緒	なし	46	97.9%	107	98.2%	48	100.0%	201	98.5%
	あり	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	無回答	1	2.1%	2	1.8%	0	0.0%	3	1.5%
	合計	47	100.0%	109	100.0%	48	100.0%	204	100.0%
その他親族と一緒	なし	44	93.6%	104	95.4%	48	100.0%	196	96.1%
	あり	2	4.3%	3	2.8%	0	0.0%	5	2.5%
	無回答	1	2.1%	2	1.8%	0	0.0%	3	1.5%
	合計	47	100.0%	109	100.0%	48	100.0%	204	100.0%
ケアサービス従事者と一緒	なし	45	95.7%	107	98.2%	46	95.8%	198	97.1%
	あり	1	2.1%	0	0.0%	2	4.2%	3	1.5%
	無回答	1	2.1%	2	1.8%	0	0.0%	3	1.5%
	合計	47	100.0%	109	100.0%	48	100.0%	204	100.0%
その他	なし	46	97.9%	105	96.3%	44	91.7%	195	95.6%
	あり	0	0.0%	2	1.8%	4	8.3%	6	2.9%
	無回答	1	2.1%	2	1.8%	0	0.0%	3	1.5%
	合計	47	100.0%	109	100.0%	48	100.0%	204	100.0%
わからない	なし	45	95.7%	103	94.5%	48	100.0%	196	96.1%
	あり	1	2.1%	4	3.7%	0	0.0%	5	2.5%
	無回答	1	2.1%	2	1.8%	0	0.0%	3	1.5%
	合計	47	100.0%	109	100.0%	48	100.0%	204	100.0%

④行方不明の兆候

行方不明の兆候であるが、「落ち着きがなく、歩き回ったりなどしていた」が56名(27.5%)で最も多かった。次に多かったのは「全くそのような兆候はなかった」も45名(22.1%)、僅差で『家にいても「帰宅」しようとした』の42名(20.6%)が続いた(複数回答)。しかし、兆候がなかった者と「わからない」を除くと、6割以上に何らかの兆候がみられた。

ただし、今回の調査対象者は全員が行方不明者であり、これらの兆候が無くても行方不明になっている。そのため兆候の有無が行方不明と関連があるかどうかはわからない。

なお、男女による違いをみると、男性では「落ち着きがなく、歩き回ったりなどしていた」が 29 名 (27.4%)、次は「全くそのような兆候はなかった」の 20 名 (18.9%) となっていた。女性は「落ち着きがなく、歩き回ったりなどしていた」が 27 名 (27.6%)、次は「全くそのような兆候はなかった」の 25 名 (25.5%) となっていた。

表 75 行方不明の兆候と性別

		男性		女性		合計	
		度数	列の N %	度数	列の N %	度数	列の N %
以前までの仕事を 行おうとした	なし	97	91.5%	93	94.9%	190	93.1%
	あり	7	6.6%	1	1.0%	8	3.9%
	無回答	2	1.9%	4	4.1%	6	2.9%
	合計	106	100.0%	98	100.0%	204	100.0%
家にいても 「帰宅」しようとした	なし	86	81.1%	70	71.4%	156	76.5%
	あり	18	17.0%	24	24.5%	42	20.6%
	無回答	2	1.9%	4	4.1%	6	2.9%
	合計	106	100.0%	98	100.0%	204	100.0%
落ち着きがなく、歩き回 ったりなどして いた	なし	75	70.8%	67	68.4%	142	69.6%
	あり	29	27.4%	27	27.6%	56	27.5%
	無回答	2	1.9%	4	4.1%	6	2.9%
	合計	106	100.0%	98	100.0%	204	100.0%
浴室、寝室、 台所など慣れ た場所が分か らなくなった	なし	94	88.7%	85	86.7%	179	87.7%
	あり	10	9.4%	9	9.2%	19	9.3%
	無回答	2	1.9%	4	4.1%	6	2.9%
	合計	106	100.0%	98	100.0%	204	100.0%
友人や家族の 所在をたずね るようになった	なし	97	91.5%	82	83.7%	179	87.7%
	あり	7	6.6%	12	12.2%	19	9.3%
	無回答	2	1.9%	4	4.1%	6	2.9%
	合計	106	100.0%	98	100.0%	204	100.0%
趣味や家事を しようとして も、何もでき ないことがあ った	なし	98	92.5%	84	85.7%	182	89.2%
	あり	6	5.7%	10	10.2%	16	7.8%
	無回答	2	1.9%	4	4.1%	6	2.9%
	合計	106	100.0%	98	100.0%	204	100.0%
まるで新しい 環境にいるよ うな当惑した 様子だった	なし	97	91.5%	89	90.8%	186	91.2%
	あり	7	6.6%	5	5.1%	12	5.9%
	無回答	2	1.9%	4	4.1%	6	2.9%
	合計	106	100.0%	98	100.0%	204	100.0%
何となくいつ もとは違っ ていた	なし	93	87.7%	83	84.7%	176	86.3%
	あり	11	10.4%	11	11.2%	22	10.8%
	無回答	2	1.9%	4	4.1%	6	2.9%
	合計	106	100.0%	98	100.0%	204	100.0%
全くそのよ うな兆候はな かった	なし	84	79.2%	69	70.4%	153	75.0%
	あり	20	18.9%	25	25.5%	45	22.1%
	無回答	2	1.9%	4	4.1%	6	2.9%
	合計	106	100.0%	98	100.0%	204	100.0%
わからない	なし	91	85.8%	81	82.7%	172	84.3%
	あり	13	12.3%	13	13.3%	26	12.7%
	無回答	2	1.9%	4	4.1%	6	2.9%
	合計	106	100.0%	98	100.0%	204	100.0%

行方不明の兆候と年齢をみると、「何となくいつもとは違っていった」において、前期高齢者は 7 名 (14.9%)、後期高齢者は 6 名 (5.5%)、超高齢者は 9 名 (18.8%) となっていた。

表 76 行方不明の兆候と年齢

		前期高齢者 (74歳未満)		後期高齢者 (75~84歳)		超高齢者(85 歳以上)		合計	
		度数	列の N %	度数	列の N %	度数	列の N %	度数	列の N %
以前までの仕 事を行おうと した	なし	43	91.5%	104	95.4%	43	89.6%	190	93.1%
	あり	2	4.3%	1	.9%	5	10.4%	8	3.9%
	無回答	2	4.3%	4	3.7%	0	0.0%	6	2.9%
	合計	47	100.0%	109	100.0%	48	100.0%	204	100.0%
家にいても 「帰宅」しよ うとした	なし	38	80.9%	82	75.2%	36	75.0%	156	76.5%
	あり	7	14.9%	23	21.1%	12	25.0%	42	20.6%
	無回答	2	4.3%	4	3.7%	0	0.0%	6	2.9%
	合計	47	100.0%	109	100.0%	48	100.0%	204	100.0%
落ち着きがな く、歩き回っ たりなどして いた	なし	33	70.2%	76	69.7%	33	68.8%	142	69.6%
	あり	12	25.5%	29	26.6%	15	31.3%	56	27.5%
	無回答	2	4.3%	4	3.7%	0	0.0%	6	2.9%
	合計	47	100.0%	109	100.0%	48	100.0%	204	100.0%
浴室、寝室、 台所など慣れ た場所が分か らなくなった	なし	42	89.4%	95	87.2%	42	87.5%	179	87.7%
	あり	3	6.4%	10	9.2%	6	12.5%	19	9.3%
	無回答	2	4.3%	4	3.7%	0	0.0%	6	2.9%
	合計	47	100.0%	109	100.0%	48	100.0%	204	100.0%
友人や家族の 所在をたずね るようになった	なし	42	89.4%	97	89.0%	40	83.3%	179	87.7%
	あり	3	6.4%	8	7.3%	8	16.7%	19	9.3%
	無回答	2	4.3%	4	3.7%	0	0.0%	6	2.9%
	合計	47	100.0%	109	100.0%	48	100.0%	204	100.0%
趣味や家事を しようとして も、何もでき ないことがあ った	なし	42	89.4%	94	86.2%	46	95.8%	182	89.2%
	あり	3	6.4%	11	10.1%	2	4.2%	16	7.8%
	無回答	2	4.3%	4	3.7%	0	0.0%	6	2.9%
	合計	47	100.0%	109	100.0%	48	100.0%	204	100.0%
まるで新しい 環境にいるよ うな当惑した 様子だった	なし	44	93.6%	98	89.9%	44	91.7%	186	91.2%
	あり	1	2.1%	7	6.4%	4	8.3%	12	5.9%
	無回答	2	4.3%	4	3.7%	0	0.0%	6	2.9%
	合計	47	100.0%	109	100.0%	48	100.0%	204	100.0%
何となくいつ もとは違っ ていた	なし	38	80.9%	99	90.8%	39	81.3%	176	86.3%
	あり	7	14.9%	6	5.5%	9	18.8%	22	10.8%
	無回答	2	4.3%	4	3.7%	0	0.0%	6	2.9%
	合計	47	100.0%	109	100.0%	48	100.0%	204	100.0%
全くそのよ うな兆候はな かった	なし	36	76.6%	79	72.5%	38	79.2%	153	75.0%
	あり	9	19.1%	26	23.9%	10	20.8%	45	22.1%
	無回答	2	4.3%	4	3.7%	0	0.0%	6	2.9%
	合計	47	100.0%	109	100.0%	48	100.0%	204	100.0%
わからない	なし	38	80.9%	92	84.4%	42	87.5%	172	84.3%
	あり	7	14.9%	13	11.9%	6	12.5%	26	12.7%
	無回答	2	4.3%	4	3.7%	0	0.0%	6	2.9%
	合計	47	100.0%	109	100.0%	48	100.0%	204	100.0%

⑤認知症の中核症状やせん妄

次に認知症の中核症状やせん妄の有無であるが、「記憶障害、見当識障害、判断力の低下など中核症状の変動」が119名(58.3%)と6割近くあった。しかし、「とくにかわりはなかった」も45名(22.1%)あった(複数回答)。とくにかわりはなかったと「わからない」を除くと、7割以上で何らかの症状がみられた。

ただし、今回の調査対象者は全員が行方不明者であり、これらの症状が無くても行方不明になっている。そのため症状の有無が行方不明と関連があるかどうかはわからない。

男女差をみると、「せん妄」が女性の方が多い傾向にあった。

表 77 認知症の中核症状・せん妄と性別

		男性		女性		合計	
		度数	列のN%	度数	列のN%	度数	列のN%
記憶障害、見当識障害、判断力の低下など中核症状の変動	なし	40	37.7%	36	36.7%	76	37.3%
	あり	64	60.4%	55	56.1%	119	58.3%
	無回答	2	1.9%	7	7.1%	9	4.4%
	合計	106	100.0%	98	100.0%	204	100.0%
せん妄	なし	99	93.4%	80	81.6%	179	87.7%
	あり	5	4.7%	11	11.2%	16	7.8%
	無回答	2	1.9%	7	7.1%	9	4.4%
	合計	106	100.0%	98	100.0%	204	100.0%
明らかな症状の変化はないが、介護者の入院・転居など症状に変化を与える変化	なし	97	91.5%	84	85.7%	181	88.7%
	あり	7	6.6%	7	7.1%	14	6.9%
	無回答	2	1.9%	7	7.1%	9	4.4%
	合計	106	100.0%	98	100.0%	204	100.0%
とくにかわりはなかった	なし	79	74.5%	71	72.4%	150	73.5%
	あり	25	23.6%	20	20.4%	45	22.1%
	無回答	2	1.9%	7	7.1%	9	4.4%
	合計	106	100.0%	98	100.0%	204	100.0%
その他	なし	101	95.3%	84	85.7%	185	90.7%
	あり	3	2.8%	7	7.1%	10	4.9%
	無回答	2	1.9%	7	7.1%	9	4.4%
	合計	106	100.0%	98	100.0%	204	100.0%
わからない	なし	98	92.5%	91	92.9%	189	92.6%
	あり	6	5.7%	0	0.0%	6	2.9%
	無回答	2	1.9%	7	7.1%	9	4.4%
	合計	106	100.0%	98	100.0%	204	100.0%

認知症の中核症状やせん妄と年齢をみると、年齢による違いはあまりなかった。

表 78 認知症の中核症状・せん妄と年齢

		前期高齢者(74歳未満)		後期高齢者(75~84歳)		超高齢者(85歳以上)		合計	
		度数	列のN%	度数	列のN%	度数	列のN%	度数	列のN%
記憶障害、見当識障害、判断力の低下など中核症状の変動	なし	14	29.8%	46	42.2%	16	33.3%	76	37.3%
	あり	30	63.8%	58	53.2%	31	64.6%	119	58.3%
	無回答	3	6.4%	5	4.6%	1	2.1%	9	4.4%
	合計	47	100.0%	109	100.0%	48	100.0%	204	100.0%
せん妄	なし	42	89.4%	92	84.4%	45	93.8%	179	87.7%
	あり	2	4.3%	12	11.0%	2	4.2%	16	7.8%
	無回答	3	6.4%	5	4.6%	1	2.1%	9	4.4%
	合計	47	100.0%	109	100.0%	48	100.0%	204	100.0%
明らかな症状の変化はないが、介護者の入院・転居など症状に変化を与える変化	なし	41	87.2%	94	86.2%	46	95.8%	181	88.7%
	あり	3	6.4%	10	9.2%	1	2.1%	14	6.9%
	無回答	3	6.4%	5	4.6%	1	2.1%	9	4.4%
	合計	47	100.0%	109	100.0%	48	100.0%	204	100.0%
とくにかわりはなかった	なし	38	80.9%	78	71.6%	34	70.8%	150	73.5%
	あり	6	12.8%	26	23.9%	13	27.1%	45	22.1%
	無回答	3	6.4%	5	4.6%	1	2.1%	9	4.4%
	合計	47	100.0%	109	100.0%	48	100.0%	204	100.0%
その他	なし	40	85.1%	100	91.7%	45	93.8%	185	90.7%
	あり	4	8.5%	4	3.7%	2	4.2%	10	4.9%
	無回答	3	6.4%	5	4.6%	1	2.1%	9	4.4%
	合計	47	100.0%	109	100.0%	48	100.0%	204	100.0%
わからない	なし	43	91.5%	100	91.7%	46	95.8%	189	92.6%
	あり	1	2.1%	4	3.7%	1	2.1%	6	2.9%
	無回答	3	6.4%	5	4.6%	1	2.1%	9	4.4%
	合計	47	100.0%	109	100.0%	48	100.0%	204	100.0%

⑥認知症の症状

認知症の症状であるが、「徘徊」が91名(44.6%)と最も多かった(複数回答)。その他にも「暴言」が63名(30.9%)、「妄想」が62名(30.4%)などで3割以上あった。しかし、「とくになかった」も37名(18.1%)あり、2割近くには症状がなかった。とくになかったと「わからない」を除くと、約8割に何らかの症状がみられた。

ただし、今回の調査対象者は全員が行方不明者であり、これらの症状が無くても行方不明になっている。そのため症状の有無が行方不明と関連があるかどうかはわからない。

男女差をみると、「幻視・幻聴」、「妄想」、「火の不始末」が男性より女性の方が多かった。